

第37回
千葉県建築学生賞
Chiba Architecture
Graduate's Prize
2025

第37回千葉県建築学生賞 2025

千葉県建築学生賞協会

千葉県
建築学生賞
第37回

「友環所」でいっしょに再び未来を
豊島清福工業場を親とみる建築家
中村 綾 東京理科大学 建築理工学部 建築学科

船橋水景を宿す
水辺の生活と文化を蓄積する建築家
若松 瑞弥 日本大学 理工学部 海洋建築工学科

繋ぐ
ユラユラネットワークの再構築
ヴァナキ 千葉大学 工学部 総合工学科 建築学科
平田 雅也

世界から切り離された美術館
藤本 千廣 千葉工業大学 創造工学部 建築学科

慈雨礼賛
雨と自然と脱馴化装置
澤村 亮太 千葉大学 工学部 総合工学科 建築学科

ものメロ
吹抜けが繋ぎあがる
青木 花梨 日本大学 生産工学部 建築工学科

川越再群落化計画
時を再び鳴鐘する群落的町並みのあふれ
菊池 康太 日本大学 理工学部 海洋建築工学科

50,000㎡の間
施設地再生と記憶の再資源化計画——パルコート
吉田 晃一 千葉大学 工学部 総合工学科 建築学科

カタワラに棲まう
寝殿造の空間構造から再考する
佐藤 輝 千葉工業大学 創造工学部 建築学科

商いの向こう側
西村 風香 東京電機大学 未来科工学部 建築学科

西尾久blossom
集住・商店街に咲かせる賑わいの場
若林 大輔 千葉工業大学 創造工学部 建築学科

団扇で竹を仰ぐ
房州うちわと竹のまち「鎌山」の継承
片岡 真一郎 千葉大学 工学部 総合工学科 建築学科

大学生の部
University student section

第37回千葉県建築学生賞

2025 3.8(土) 3.9(日)
8日(土) 10:00~19:00 (10:00~公開審査 / 17:30~表彰式)
9日(日) 10:00~15:00 (作品展示 / 12:00~ブラッシュアップ相互評価会)
会場 イオンモール 幕張新都心
GRAND MALL 3F「イオンホール」



高校生の部
High school student section

みんなの「はなれ」
林 樹月 千葉県立東総工業高等学校 建築科

幕張モンパルナス
文化の発信拠点
武村 宗一郎 千葉県立京葉工業高等学校 建築科

木蜜の矩形良屋
密に暮らす下町に新たな暮らしの場
寺門 優弥 千葉県立京葉工業高等学校 建築科

物語に包まれる家
湯浅 翔永 千葉県立市川工業高等学校 建築科

結ぶ
神代 優羽 千葉県立市川工業高等学校 建築科

- 03 開催報告
- 04 審査総評
- 05 特別審査員講評
- 07 公開審査経過
- 09 大学作品
- 43 高校作品
- 48 なの花会による「ブラッシュアップ相互評価会」の報告
- 49 千葉県建築学生賞へのご意見・ご感想・ご要望
- 51 作品へのコメント
- 55 審査員プロフィール
- 59 協賛・後援
- 60 主催者団体

第37回千葉県建築学生賞 開催報告

千葉県建築学生賞協議会 第37回 会長 小島 聡



千葉県内には、建築設計に係わる組織として、日本建築家協会千葉地域会（JIA千葉）、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会、日本建築学会千葉支所、日本建築構造技術者協会（JSCA千葉）などの建築関連団体があります。

これらの団体は、それぞれ目的や趣旨が示されていますが、建築活動を通じて広く社会に貢献する点では共通の価値観を持ち、互いに協調して地域社会と各組織の文化的活性を促しています。こうした趣旨を下支えとして1988年に発足した千葉県建築学生賞は、県内に建築系学科を持つ大学と建築を通じて広く意見交換や意識交流を図る場と同時に、将来性溢れる学生諸君への精神的支援の一助とすべく、記念すべき卒業設計の優秀作品にエールを贈ることを目的に、主催4団体と協力団体・協賛会から出向する50名を超えるボランティア委員が中心となって運営しています。出展の大学及び高校の関係者皆様のご協力にご理解に改めて感謝いたします。

さて、全国に先駆けて始まった千葉県建築学生賞も今回で37回を迎え、2025年3月8日（土）、9日（日）にイオンモール幕張新都心 GRAND MALL イオンホールを会場に、各学校の代表として大学生17作品、高校生4作品の他、高校生の特別展示作品1作品を加えた渾身の22作品が集まり開催することが出来ました。8日の公開審査では、多くの見学者とYouTube視聴者が見守る中で出展者のプレゼンテーションと、それに応じる審査員による活気あるエネルギー溢る議論が出展者と審査員、更には審査員同士の「うんちく」ある意見が「侃々諤々（かんかんがくがく）」と交わされて最優秀賞の他、各賞が選出されました。

卒業設計は自分にしか考えられないことを外に向かって表現するチャンスです。社会へ出ると現実のルールに拘束されることでしょう。でも卒業設計ではそれに縛られることなく、純粋な可能性を主張することが許されるのです。それこそが学生らしい卒業設計であると思いながら、出展者のプレゼンテーションを楽しく見ました。審査員との応答は、とても有意義であり異なる視点の発見の場でもありました。設計コンペ

の結果は、審査員が変われば変わります。賞の結果に一喜一憂するのではなく、これまで学んだ知識と経験を総動員して自分と向かい合い、社会に問いかけられたかが重要です。もう一度自分を見つめ直す機会にしてください。

そして、卒業設計は学生時代の終わりであると同時に、建築家としてのキャリアの始まりでもあります。建築は常に更新を続ける科学とは違い、古代や近世の作品と対等に比較できる芸術の側面を持ちます。創り出されるものは時代の波に洗われながら、常に変貌していきます。建築も伝統と変革のせめぎ合いの間で、いかに質の高い建造物と環境を世に創出していくか、常に直接建築家としての資質が試され続けます。

私たち千葉県建築学生賞協議会も、「侃々諤々」をエネルギー源として、この催しが地域で活躍する建築家と研究教育機関である学校との間に、そして現在の建築家と未来の建築家との世代間に「橋を架ける」役割を果たし、建築界の担い手の資質の向上に貢献することができればと切に願って、広く市民との交流を図りながら、建築文化に対する社会の理解を深めるよう努力し続けます。

最後に、長い時間にわたり丁寧な審査をいただきました審査員の方々、会の進行をサポートいただいた運営委員の皆様、協賛各社に感謝申し上げますとともに、出展学生のご発展をお祈りいたします。

第37回千葉県建築学生賞 審査総評

千葉県建築学生賞協議会 第37回 審査委員長 蒲生 良隆



今年も各大学から優秀な作品が集まりました。大学時代にテーマを考え情報を収集して勉強と卒業制作に取り組まれた結果学内で優秀な成績を収め、この学生賞に出展されたことをまず評価します。

今回の学生賞は7大学10学科からの出展でした。そのおおまか内訳は都市街並、商店街の再生をテーマにしたものが多くみられ5作品、地域の再生3作品、コミュニティー公共建築2作品、都市美術館2作品、その他5作品の合計17作品でどれも個性溢れる作品が集まりました。毎年川、海辺の作品は数点あるが今年は少なく1点のみであった。今年も各作品の概要を1週間前より、特別審査委員のアントニオ、通訳の皆川氏と共に読み込みました。当日朝8時からの模型や追加の資料を審査委員と共に見て廻り、作品の本質を理解するように慎重に審査を進めていきました。

プレゼン5分、質疑と講評で4分として更に理解を深めていきます。去年は質疑講評時間が3分でしたがプラス1分とし、各審査委員も自分の推しの作品に対して確認することが出来たと思います。上位の5作品については審査員の評価がほぼ一致していましたが、残りの3作品を追加し8作品にするのがかなり難し選択となりました。

結局8作品に絞ることができず、なかなか難しい審査となり今回は過去にない10作品の2次審査通過となりました。中上位作品がほんとうに僅差であることが解ります。

2次審査では今回4作品となるが、ここでは各審査員の評価軸がそれぞれ違うことが鮮明にわかります。地道な調査分析を基に計画されたもの、今までにないデザイン的に優れたもの、普遍的な形状ながら将来的にも出来たら素晴らしいと感じ共感できるもの他何を主体にみて判断するかとても迷う時間となった。評価軸の違いから議論の末上位4作品を選ぶのにとても苦しい選択であった。

3次審査では4作品より最優秀を決めるが最初の同点配点から、さらに点数を入れて最優秀賞が「船橋水景を宿す」に決定した。合わせて千葉県知事賞も受賞となっている。

僅差であり審査委員同士の質疑応答や、設計者の受け答えによっては違う結果となっていた。最優秀賞作品は柔らかな土木として、固護岸から市民が憩いの場となる水辺空間となるよう計画しており、プランに昔の原風景・市の文化的な記憶をモチーフとして、誰もがじっくり納得できる模範的な秀逸な作品でもあった。商店街の空家化を暮らし、福祉施設などの交じり合う空間として再編計画した「商いの向こう側」も優秀賞を受賞し、もうひとつの優秀賞「交環所でゴミに再び行先を」も親子建築と題して街中に小さなステーション型再資源化施設を設計した作品で、とても共感できる環境改善に直ぐにでも造りたい計画案で素晴らしい提案であった。

特別賞は「世界から切り離された美術館」と「建築を編む」の2作品で対照的な作品であった。美術館のほう是非現実的な都市にも類を見ない建築造形であり、その発想は高く評価したい、新たな都市のシンボルとなるような建築であった。藁と人であみだす場とした「建築を編む」は雨が降りこまれる屋根工法として藁を編んでつくるという潔さに強く衝撃を受けた。農業を中心とした新たなコミュニティー施設の形成として自然素材の藁を編み物素材にして建築に取り込んでいく手法はとても興味深く新鮮であった。

入選できなかった作品の中にも社会的な問題意識、地域の問題点を考え改善すべく新たな提案として設計した優秀な作品もあったが授賞作品には残念ながら今一步届かなかった。

昨年は最優秀賞作品が市民賞以外をほぼ独占したが、今年はなの花会賞、特別審査員賞もそれぞれ重複が少なく17作品中10作品が受賞することとなり全体的に順位をつけるのがとても難しい審査であったことがうかがえる。

今年も出展作品に刺激を受け、自分も設計活動に力をいれていこうと思います。

学生諸君も社会や進学先の新たなステージにて、千葉県建築学生賞に参加したことを誇りに持ち、設計することが楽しくなるようにますます設計力を磨いてください。

第37回千葉県建築学生賞 特別審査員講評

千葉県建築学生賞協議会 第37回 特別審査委員 Arch. Antonio Esposito



はじめに

今回もまた審査員としてお招き頂き、大変光栄に思います。このイベントは私にとって毎年の楽しい習慣になりつつあり、この素晴らしい議論と討論を可能にしてくれている学生賞協議会のチーム皆さまに感謝したいと思います。

総評

残念ながら、距離的、時間的な制約から、プレゼンテーションと本日の討論を深く追うことはできませんが、しかし、全17つの作品を総覧するなかで、いくつかの注目した点をお伝えしたいと思います。

出展されている作品は、自分たちの住む、そしてこれから住むことになる地域の未来に対して、日本の若い世代が感じていることを示しており、それらの課題や不満は、日本のみならず、世界の若い世代が感じている価値観と大きな点で一致しているように思えます。私は、これらの社会に対する不満や課題の原因を共有し、景観や土地等のエネルギー・資源などについて、現状に至っているシステムを本質的に批判する時が来たと感じています。これまでに地球上の多くの地域で起こっている文化的、政治的な出来事が、再考に向けた新たな段階の幕開けに向けた、収束のシグナルを送っているのです。

その再考とは、住まいというテーマ、都市と自然、都市における自然へのノスタルジー、そしてプロジェクトにおけるコミュニケーションと美的役割についてです。

私たちはこれまでの、個人の強い表現をコミュニティに押し付ける様な、壮大なジェスチャーとしての建築の時代を経て、新しい建築の役割と、共有することの価値を再発見しつつあります。それらは、経済的・環境的不均衡に対する、“社会批判に存在価値を見出す建築”のことです。しかし私は、建築の文化というもの、正しい形の探求を通じて自らを表現するという意図から決して逃げてはならないと確信しています。

かつてミース・ファン・デル・ローエは、優れた建築は、設計目的としての形そのものに関心を持つべきではなく、プロセスの結果として現れる形に由るべきものだと言いました。一方、コンペや競争原理が働く建築教育では、前提条件から改善・実証に至る正当化のプロセスにおいて、プロジェクトの価値を尽くそうとする姿勢が優位的であり、形式的な結果に対する批判は後回しにされるか、まったく無視されているように思えます。その結果、プログラムの目的とそれを追求する方法の説明において、ある種の冗長さが生じ、他方で、形式の精緻化において過度の図式化が生じることが多いと感じます。ミースはまた、建築教育において、それぞれの地域の伝統的な歴史的建造物から出発して、建築技術と建築形態の関係性をもつ美しさの理由を、学生に示すべきだと述べています。

このように、今回出展されている作品にも見られるが、大学における設計教育の影響が、木、竹、布、藁などの伝統的な作業を細かく調査し、建設的な記憶を再生する方法論として、実践的な実験を奨励していることは、非常に興味深いことです。しかし一方で、こうした教育的なプロセスの中には、ある種の「原理主義」の旗を振りかざすかのように形の是非に立ち入ることを避け、“プロジェクトが読みやすい形を与えること”を放棄したものもあります。

日本は現在、歴史の中において、非常に魅力的な現代建築が存在し、研究、技術、言語、そして伝統と現代の関係性等、最も革新的な貢献をしている国であると言えます。安藤忠雄、隈研吾、坂茂（おそらくエコロジ問題に最も気を配っている建築家）、SANAA、三分一博志、イタリアで最も人気のある建築家を挙げればきりがなが、彼らに代表される日本の建築家は、過去の記憶と現実との、豊かで概念的な結びつきをどのように理解できるかを世界に示しています。

私は、日本の学生たちは、日本の建築議論に常に登場する他の多くの例と同様に、これらの例を参考にすべきだと思います。彼らの「スタイル」や外見を真似るのではなく、彼らの考え方や仕事の仕方の本質を観察することで“師匠から芸術の秘密を盗む弟子”のように、徐々に自分の芸術の基礎を築いていくものなのです。

SALUDOS

Una vez más, me siento muy honrado por la invitación a formar parte de este jurado. Ya se está convirtiendo en una agradable costumbre. Me gustaría dar las gracias a todo el equipo que hace posible esta maravillosa iniciativa de discusión y debate cada año.

CONSIDERACIONES GENERALES

Lamentablemente, la distancia y las condiciones horarias no me permiten seguir en profundidad las presentaciones y el debate. Sin embargo, quizá pueda destacar algunos aspectos destacables del clima general que los diecisiete proyectos nos permiten percibir con bastante claridad.

Me parece que los proyectos seleccionados están unidos por un sentimiento de insatisfacción y, tal vez, de gran preocupación por las condiciones en las que la población japonesa joven —pero creo que puede hacerse extensivo a la población mundial— imagina el futuro de los territorios en los que vive y vivirá. Comparto las razones de esta insatisfacción y creo que ha llegado el momento de realizar una crítica sustancial del sistema que ha conducido a semejante disipación de energía y recursos del paisaje y la tierra. Los acontecimientos culturales y políticos de muchas zonas de nuestro planeta están enviando señales de convergencia hacia la apertura de una nueva fase de replanteamiento.

Replanteamientos que implican la esfera del habitar, del estar en la ciudad y en la naturaleza, de la nostalgia de la naturaleza en la ciudad, pero también replanteamientos del papel comunicativo y estético del proyecto.

Tras la época del proyecto como gesto grandioso que imponía a las comunidades una suma de fuertes expresiones individuales, quizá hoy estemos redescubriendo el valor de la expresividad tenue de una arquitectura de servicio y compartida. Una arquitectura que encuentra su razón de ser en la crítica social a los desequilibrios económicos y ecológicos.

Sin embargo, sigo convencido de que la cultura arquitectónica nunca debe retroceder en su intención de expresarse a través de la búsqueda de la forma adecuada.

Mies van der Rohe decía que la buena arquitectura no debe interesarse por la forma en sí misma como objetivo de diseño, sino por la forma como resultado del proceso de formación

En cambio, me parece que en las escuelas de arquitectura representadas por los proyectos de concurso prevalece una actitud que pretende agotar el valor del proyecto en el proceso de justificación que lleva de las premisas a una acción correctora o demostrativa, dejando en un segundo plano, o descuidando por completo, la crítica de sus resultados formales.

El resultado suele ser una cierta redundancia en la ilustración de los objetivos programáticos y la forma de perseguirlos y, por otra parte, una excesiva esquematización en la elaboración de la forma.

Mies también decía que las escuelas deberían mostrar a los alumnos las razones de la belleza en la conexión entre técnica constructiva y forma arquitectónica, partiendo de los edificios históricos de la tradición de cada territorio.

Así, es muy interesante ver cómo las didácticas de las técnicas de diseño de las escuelas aquí presentes, investigan de cerca el trabajo tradicional del bambú, la madera, la tela, la fibra de arroz, etc., fomentando su experimentación práctica como metodología para la revitalización de una memoria constructiva.

Pero, por otro lado, algunos de estos procesos didácticos se abstienen de entrar en los méritos de la forma, cabalgando en algunos casos sobre un cierto «primitivismo» de bandera que renuncia a dar forma legible al proyecto.

Japón es quizás, en este momento de la historia, el país que ha producido la arquitectura contemporánea más interesante, la más rica en aportaciones y contribuciones innovadoras en cuanto a temas de investigación, técnicas, lenguaje y relación entre tradición y contemporaneidad.

Arquitectos de la talla de Tadao Ando, Kengo Kuma, Shigeru Ban —quizá el más atento a las cuestiones ecológicas—, SANAA, Hiroshi Sambuichi, por citar sólo a los más populares en Italia; todos ellos arquitectos que muestran al mundo cómo puede entenderse un fructífero vínculo conceptual con la memoria y la actualidad del pasado.

Creo que los estudiantes japoneses deberían fijarse en estos ejemplos, como en muchos otros que sin duda pueblan el debate sobre la arquitectura en Japón. No para imitar su «estilo», sus apariencias, sino observando la sustancia de su forma de pensar y trabajar, como el aprendiz que roba los secretos del arte al maestro para construir poco a poco los cimientos de su propio arte.

SOBRE ALGUNOS PROYECTOS.

推薦作品



No.2 『慈雨礼賛 雨×自然×脱馴化装置』

このプロジェクトは、雨のような最も魅惑的で無いものでさえも、あらゆる自然要素がデザインのインスピレーションの源となり、建築空間の繊細な体験を豊かにすることを示しています。建築とその素材である石や鉄筋コンクリートは、音、光、色、匂いなど、さまざまなグラデーションを持つ大気現象の反響板となる。コケや酸化などの自然の要素は、建築の友となり、その熟成と経年変化を伴うものです。

No.2

El proyecto muestra cómo todos los elementos naturales, incluso los menos cautivadores, como la lluvia, pueden convertirse en motivo de inspiración para el diseño y en riqueza de la experiencia sensible del espacio arquitectónico. La arquitectura y sus materiales, la piedra y el hormigón armado, se convierten en caja de resonancia del fenómeno atmosférico en sus diferentes gradaciones de sonido, luz, color y olor. Los elementos naturales, como los musgos y las oxidaciones, se vuelven amigos de la arquitectura y acompañan su maduración y envejecimiento.



No.5 『船橋水景を宿す』 及び

No.12 『川越再群落化計画』

どちらのプロジェクトも、社会的・経済的な問題に取り組むものであり、模型の構築、空間と建築形態を精密なリサーチを通じて、都市景観に介入しています。両作品は、社会経済的な現象がもたらす悪影響に対する批評がデザインの実践に反映されており、建築デザインは土地利用や都市景観の悪化に対して、に良い影響を与えることができる事を確信しています。

No.5 & No.12

Ambos proyectos abordan una problemática social y económica, interviniendo en el paisaje de la ciudad con rigor y habilidad en la investigación de la forma del espacio y de la arquitectura a través de la construcción de la maqueta.

En ambos casos, la crítica de los efectos negativos de un fenómeno socioeconómico se traduce en la práctica del diseño, con la convicción de que el diseño arquitectónico puede influir positivamente en la degeneración del uso del suelo y del paisaje urbano.

第37回千葉県建築学生賞 公開審査経過

千葉県建築学生賞協議会 第37回 コーディネーター 関谷 和則



公開審査による「公平な審査」を実施すること、本学生賞のモットーである「学生にエールを贈る(＝作品ブラッシュアップにつながる“気づき”の提示)」を展開すること、審査される側の出展者が「納得感ある手続き(審査)」の3点を引き出すこと、を意識した進捗を目指した。そのため、審査員同士が異なる視座に立った“議論”を交わす場を誘発することができるよう、配慮を心掛けた。

10時05分より、作品出展者が作品プレゼンテーション(5分)を実施し、その後、審査員講評および質疑応答(5分) 全17作品をおこなった。昼食をはさみ、13時30分から、8作品を選出するための一次審査として、審査員7名が推薦する8作品に対して、1回目の投票を実施した。投票集計結果は、その都度、大画面に表示をおこない、各審査委員がどの作品に投票しているのかを出展者や観客が経緯をたどることができるよう配慮した。投票の結果、作品番号5・9(13得票)、作品番号11・14・17(12得票)の5作品が、1回目の投票によって選出された。

のこり3作品を選出する2回目の投票によって、作品番号4・6(4得票)の2作品が選出された。これにより、計7作品が選出された。計8作品の選出をするために、2回目の投票で3票を獲得した5作品(作品番号2・3・10・12・17)に対する、3回目の投票を実施した。その結果、作品番号2・10・17の3作品が選出され、1次審査通過が10作品となった。出展された17作品には、各設計者が描いた“物語”と“熱い想い”があり、優秀な作品が多数あったため、評価が拮抗する結果となった。

15時10分から二次審査を開始、一次審査を通過した10作品に対して、作品番号順に審査員同士の意見を交わした。審査員の評価軸も多岐にわたり、評価が大きく分かれる作品もいくつもあった。様々な視点からの作品評価の議論が展開されたことは、とても良かったと考えている。

二次審査は、各審査員の持ち点を10とし、推薦する3作品に対して配点自由(最大配分は7点+2点+1点を前提とした)の投票審査を実施した。

その結果、作品番号9「商いの向こう側」(18得票)、作品番号5「船橋水景を宿す」(15得票)、作品番号6「交換所でごみに再び行き先を」(12得票)、作品番号10「カタワラに棲まう」(10得票)の4作品が選出された。

三次審査は、選出4作品に対して、各審査員が、どこを評価しているのか、不足している項目は何か、を冒頭に公開講評をおこなう審査形式をとった。これにより、審査委員間での相互議論を深めることができたと考ええる。各審査委員からは様々な意見が出て、多様な評価軸があることが提示された。この多様な評価軸(視点)の提示は、出展者にとって、作品ブラッシュアップにつながる“気づき”に繋がり、とても意義のあることだった。激論が展開され、非常に有意義な審査となった。議論の末、各審査員の持ち点を3とし、上位から2作品を選出、2点・1点とする投票をおこなった。その結果、7得票：作品番号5・9、4得票：作品番号6、3得票：作品番号10、となり、作品番号5・6・9の3作品による最終投票を実施することになった。

3作品に対して、更に審査員間の議論を深めた後、最終投票は、審査員7人が推薦する作品に対して挙手をおこなう審査形式とした。1回目の挙手により、3得票が2作品(作品番号5・9)、1得票が1作品(作品番号6)の結果となり、最優秀賞を決定する2回目の挙手を実施した。その結果、4得票となった作品番号5「船橋水景を宿す」が最優秀賞に選出された。優秀賞は、作品番号9「商いの向こう側」、作品番号6「交換所でごみに再び行き先を」が選出された。その後、特別賞(最優秀賞・優秀賞にな

らなかった作品のなかから秀でた作品を選出)の審査をおこなった。各審査員の持ち点を3とし、上位から2点・1点を投票する審査形式とした。その結果、作品番号3・17(得票6)、作品番号2・7・8・11(得票2)、作品番号10(得票1)となり、特別賞は、作品番号3「世界から切り離された美術館」・作品番号17「建築を編む」の2作品が選出された。16時20分、公開審査は終了した。

担当する審査委員が変わると、評価の順番が大きく入れ替わるのではないかと思うくらい、出展17作品はいずれも秀作であった。公開審査での審査委員からの様々な作品に対する指摘は、出展者にとって大きな収穫であったのではないか。この“きっかけ”を糧に、更なる作品ブラッシュアップにつなげていただきたい。



第37回千葉県建築学生賞展 作品		一次審査																	二次審査									
		投票 1-1								投票 1-2								投票 2-1										
		蒲生	磯野	水越	池田	川口	高梨	馬場	集計	結果	蒲生	磯野	水越	池田	川口	高梨	馬場	集計	結果	蒲生	磯野	水越	池田	川口	高梨	馬場	集計	結果
1	もりスポ	1	2	1	1	1	1	1	8		0	1	0	0	0	0	0	1									—	—
2	慈雨礼賛 雨×自然×脱馴化装置	1	2	2	2	1	1	1	10		0	1	1	1	0	0	0	3	通過		1		3				4	
3	世界から切り離された美術館	2	2	1	2	1	1	2	11		1	1	0	0	0	0	1	3									—	—
4	繋ぐ	1	1	2	1	2	2	2	11		0	0	1	0	1	1	1	4	通過							0		
5	船橋水景を宿す	2	2	2	1	2	2	2	13	通過	0	0	0	0	0	0	0		通過	6	2		3		3	1	15	通過
6	「交環所」でごみに再び行き先を	2	2	1	1	2	2	1	11		1	1	0	0	1	1	0	4	通過	2	7			3			12	通過
7	団扇で竹を仰ぐ	2	1	1	2	1	1	1	9		1	0	0	1	0	0	0	2									—	—
8	西尾久blossom	1	1	1	2	2	1	1	9		0	0	0	1	1	0	0	2									—	—
9	商いの向こう側	2	2	2	1	2	2	2	13	通過	0	0	0	0	0	0	0		通過	2		4		6	3	3	18	通過
10	カタワラに棲まう	2	1	2	1	1	2	2	11		0	0	1	0	0	1	1	3	通過			4				6	10	通過
11	50,000㎡の間	1	2	2	2	2	2	1	12	通過	0	0	0	0	0	0	0		通過				4	1			5	
12	川越再群落化計画	1	1	1	2	1	2	2	10		0	0	0	1	0	1	1	3									—	—
13	まちなか学生拠点	1	1	1	1	1	1	1	7		0	0	0	0	0	0	0	0									—	—
14	めぐり続けるぬくもりのまち	1	1	2	2	2	2	2	12	通過	0	0	0	0	0	0	0		通過						4		4	
15	つながりが生まれるところ	1	1	1	1	1	1	1	7		0	0	0	0	0	0	0	0									—	—
16	Ginza Leading Museum	2	2	1	2	2	1	2	12	通過	0	0	0	0	0	0	0		通過								0	
17	建築を編む	2	1	2	1	1	1	1	9		1	0	1	0	1	0	0	3	通過			2					2	

第37回千葉県建築学生賞展 作品	三次審査<最優秀賞x1 優秀賞x2>										特別賞審査<特別賞x2>										受賞	JIA 出展作品
	投票 3-1										投票 特-1								特別審査員			
	蒲生	磯野	水越	池田	川口	高梨	馬場	集計	結果	蒲生	磯野	水越	池田	川口	高梨	馬場	集計	結果	アントニオ			
1 もりスポ								—	—								0			市民賞・奨励賞		
2 慈雨礼賛 雨×自然×脱馴化装置								—	—			1	1				2		○	特別審査員賞・奨励賞	○	
3 世界から切り離された美術館								—	—	2	2					2	6	○		特別賞		
4 繋ぐ								—	—								0			奨励賞		
5 船橋水景を宿す	1	1	1	1	1	1	1	7	○								0		○	最優秀賞・特別審査員賞	○	
6 「交環所」でごみに再び行き先を	1	1	—	—	1	1	—	4	○								0			優秀賞		
7 団扇で竹を仰ぐ								—	—						2		2			JSCA千葉・構造デザイン特別賞		
8 西尾久blossom								—	—				2				2			奨励賞		
9 商いの向こう側	1	1	1	1	1	1	1	7	○								0			優秀賞		
10 カタワラに棲まう			1	1			1	3								1	1			奨励賞・なの花会賞	○	
11 50,000㎡の間								—	—			2					2			奨励賞		
12 川越再群落化計画								—	—								0		○	特別審査員賞・奨励賞		
13 まちなか学生拠点								—	—								0			奨励賞		
14 めぐり続けるぬくもりのまち								—	—								0			奨励賞		
15 つながりが生まれるところ								—	—								0			奨励賞		
16 Ginza Leading Museum								—	—								0			奨励賞		
17 建築を編む								—	—	1	1	2		1	1		6	○		特別賞		

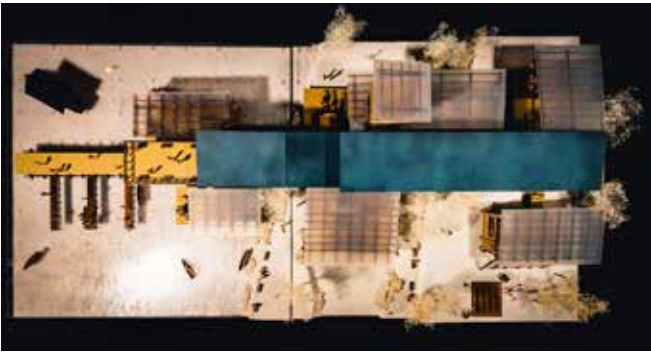
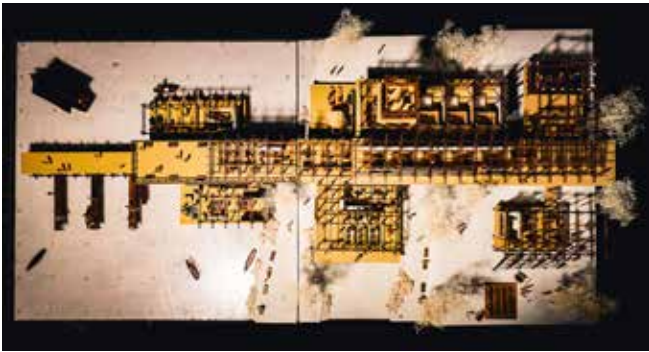
船橋水景を宿す

水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置

若松 瑠冴 わかまつりゆうご 日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科



最優秀賞 | 特別審査委員賞 | JIA出展作品



The Ebigawa River was once the lifeline of Funabashi. The livelihood and vitality of the waterfront has been lost due to uniform river improvement. We extracted the behavior from the fragments of waterfront memories scattered throughout the city, categorized them into upper, middle, and lower reaches, and designed them to be replaced with modern functions. We propose an architecture that visualizes the livelihood of the waterfront lost to the flood control infrastructure of the regulating reservoir, and sublimates it into a soft civil engineering structure that coexists with flood damage. This is my gift to the residents who are indifferent to the city, telling them the story of the waterfront that has watched Funabashi grow.

かつて船橋の生命線であった海老川。水辺の生業や活気は画一的な河川改修により喪失した。街中に点在する水辺の記憶の断片から振る舞いを抽出し、上・中・下流へ分類し現代的な機能に置き換え設計を行う。調節池という治水インフラに失われた水辺の生業を可視化し、水害と共存する柔らかい土木へと昇華させる建築を提案する。街に無関心な住民に船橋の成長を眺めてきた水辺の物語を伝える、わたしからの贈り物である。



講評
蒲生 良隆

水害から人を守るために水辺の豊かな環境から人を遠ざけた硬い護岸の土木を、新たに柔らかい土木と題しての提案である。船橋の水辺の記憶をモチーフとして建物を設計している。櫓部分は船橋大神宮の灯明台からの発想で船橋市民なら納得ができる。水辺再建するため地下部で川と繋げて上水位面を引き込み常時水位が保たれ遡上した魚が施設すぐ近くを泳ぎ小舟遊びもできるような水辺空間となる、豪雨時には調整池隣水面が3段階に広さを増していく、栄養豊富な泥は家庭菜園などを利用する畑に活力を与える仕組みとなっている。建物自体は木造の掘立軸組構造であり、市民により定期的に修繕が必要でその行為により地域のコミュニティを形成するべく提案され、以前からある畦道軸線に船橋の記憶を派生させ部位毎に市場や農作物販売、伝統地域芸能の練習スペースなどを計画している。計画地エリアは新駅が出来ると都市の一部となり都市化してしまう場所であるが、船橋の原風景となるべく水辺憩い場・災害対策の一環として残せると嬉しい。現実的に建築可能な秀逸な設計作品と言える。

「交環所」でごみに再び行先を

豊島清掃工場を親とする子建築

中村 綾 なかむら あや 東京理科大学 / 創域理工学部 / 建築学科

優秀賞



When architecture has a wish of some kind, a small architecture may be created to fulfill it. For example, a police station gives birth to a Koban out of a wish to make the city safe. When it is close by, it creates a sense of security and awareness that one can rely on. I name the architecture with this relationship as parent and child architecture, and apply it to other building types. I propose a child architecture, a “Kokanjo,” to fulfill the wish of the parent architecture, a waste incineration plant, to “reduce the amount of burnable waste and make the city usable for many years to come. The site is located in three areas in Toshima Ward. At Kokanjo, food loss, food scraps, cloths, and other combustible waste rooted in each area will be composted and reused. The project will give a destination to items that would otherwise become garbage, and at the same time, create opportunities for interaction between local residents and visitors.

建築が何らかの願いを持ったとき、それを叶えるための小さな建築が生まれることがある。例えば警察署は、街を安全にしたいという願いから交番を生み、それが身近にあると、頼れる安心感や啓発意識が生じる。私はこの関係を持つ建築を親建築・子建築と名付け、他のビルディングタイプに応用する。親建築・ごみ焼却場の「燃えるごみを減らして未永く使える街にしたい」という願いを叶えるための子建築・「交環所」を提案する。敷地は豊島区内の3エリア。交環所では各エリア毎に根差すフードロス、生ごみ、布類等の可燃ごみを堆肥化・再利用する。ごみになるはずだった物に行先を与えると同時に、地域住民や訪問者の交流の機会を創出する。



講評
磯野 智由

非常に着眼点がよく、建築用途の親と子の関係に気づき、親子とネーミングできたこと、この観点で優秀賞に匹敵し、小さいけど様々な地域課題に応用していくことのできる可能性のある優れた案だと感じた。このような関係性は、社会に取ってこれまでにないビルディングタイプとして機能していくと感じれる。ゴミ処理場を親とし、ゴミをテーマとしたゴミ収集所ではなく、小分けされたリサイクルステーション、そこから派生する新たな機能と、交流、ゼロ・ウェイストの概念で新たに生まれ変わり繋がる社会を描いている。私は市民活動団体の活動の中で、地域の課題を目にするが親子として既存の子の立場のあり方を見直すこと。また、そのことにより親の在り方を再定義できるかもしれない。最後のJIA大会にへの参加は逃してしまったが、この案での提案にとどまらない、広角な課題解決の方法論であることを、もう少し示せるとさらなる評価があったかも知れないです。実際の現場にもすぐにでも応用していける展開力と可能性に満ちた案であると評価したいです。

商いの向こう側

西村 風香 にしむら ふうか 東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

優秀賞



The shopping streets, lined with stores crammed with people looking for productivity, were crowded with many people. However, as soon as the shuttered stores start to stand out, they look more like a wall dividing the neighborhood. Given the changes in consumer behavior and values today, “lining up many stores” is not all there is to it. This proposal aims to create a new relationship between the shopping district and the community by incorporating welfare facilities and by unraveling one strong link across the shopping street.

かつて、生産性を求め所狭しと店が並んだ商店街は、多くの人で賑わいを見せた。しかしシャッターを下ろした店が目立ち始めると、それらはかえって周辺地域を分断する壁のように見えた。今の形のままの商店街に、未来はあるのだろうか。今後は商店の機能のみに頼るのではなく、多くの人が暮らすエリアを巻き込むことが町の未来に繋がると考える。そのために、商店街を利用する人々がその奥にある暮らしのエリアを認識する必要がある。

本提案は、福祉施設を取り入れること、商店街通りに架かる一本の強い繋がりを解いていくことによる、商店街と地域の新たな関係性の創出を目的とする。



講評
川口 有子

砂町銀座商店街のシャッター街における提案。空き家化する店舗付き住宅の問題や周囲の都市施設、コミュニティの状況の分析の手際が大変鮮やかで、商店街を解体し、福祉施設、住宅、店舗が交じり合う建築に再編するという思い切った提案ではあるが、確かな説得力を持たせることに成功している。建築は、商店街通りから見て、商いの場・通り土間・生活の場にわかれ、「商いの場」が所々抜けていることで、「生活の場(向こう側)」が垣間見えるようになっている。角度や高さを少しずつ変化させたことで、さまざまな形が連なって奥行きのある集落のようになったファサードが、「商いの向こう側」というタイトルとあいまって、この案の魅力が凝縮されており大変美しいと思った。

世界から切り離された美術館

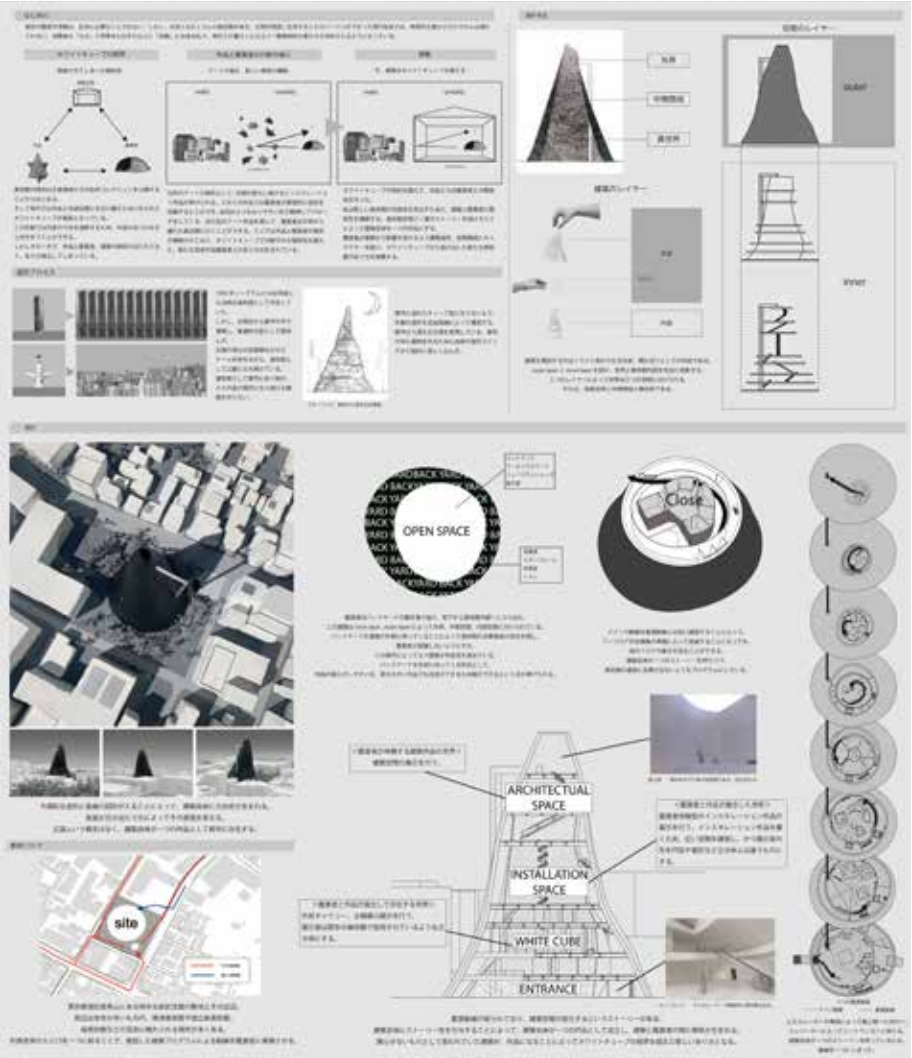
藤本 千廣 ふじもと ちひろ 千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科

特別賞



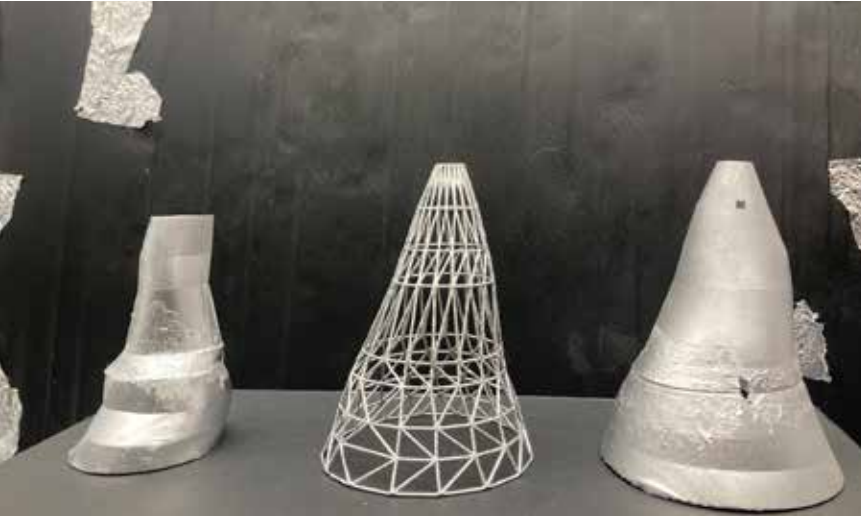
In modern society, where civilization has advanced and the hurdles to survival have been lowered, material abundance alone is not enough to satisfy people. More than ever, spiritual richness is sought in contemporary life. Art has the power to fill the gaps in people's hearts. One of the notable forms of contemporary art is installation art, which interacts with the viewer. These works transcend the constraints of the white cube and establish relationships with their audience. I aim to construct such relationships between architecture and its visitors. By embedding a storyline into the museum itself, I seek to transform the architecture into a singular work of art. Through architectural forms and spatial composition, I will imbue the building with character, allowing it to influence its visitors. In doing so, I propose a new kind of museum that breaks free from the conventional white cube.

文明が発達し生存することのハードルが下がった現代社会では、物質的な豊かさだけでは人々は満たされない。現代人の暮らしにはより一層精神的な豊かさが求められている。芸術は人々の心の隙間を満たしてくれる。近年のアート作品にインスタレーション作品がある。これらは鑑賞者と相互干渉をする。ホワイトキューブの制約を超えて、作品たちは鑑賞者との関係性を作った。私はこの関係性を建築と鑑賞者に構築する。美術館自体に一連のストーリーを設けることによって建築自体を一つの作品にする。鑑賞者が建築から影響を受けるよう建築造形、空間構成にキャラクターを設け、ホワイトキューブから抜け出した新たな美術館のあり方を提案する。



講評
磯野 智由

今年の学生賞出展作品の中で最も造形的でオリジナリティーを持った作品であった。近年の卒業設計の多くは、リサーチをしっかりとし、その地域の課題や必要とされる用途をむすび付け現代的な課題を解決していく作品が多い中、日ごろからのフラストレーションを爆発させたかのような、造形力豊かな唯一の作品として存在していた。民間なのか公共なのかという観点でも議論は出ると思うが、とつても恣意的だと批判されないための装備をもって彼女はもっともらしく、この美術館として、アートとしての建築を提案していた。現実社会のなかで形に根拠や言い訳をつけて、どことなく見たことのあるような建築のあふれる中で、もっと自由でいいんじゃないか。というシンプルなメッセージを強く感じるとても勇気あるチャレンジ的な作品でした。



建築を編む

藁と人であみだす場

米澤 奈央 よねざわ なお 東京理科大学 / 創域理工学部 / 建築学科



特別賞

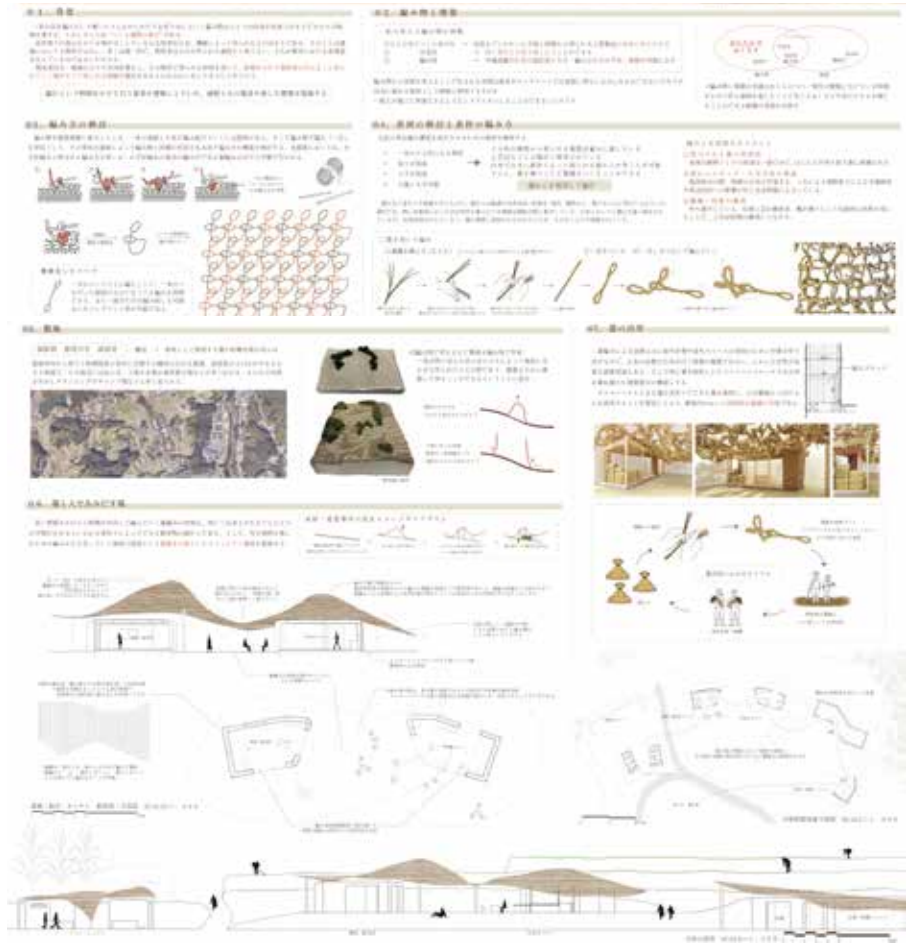
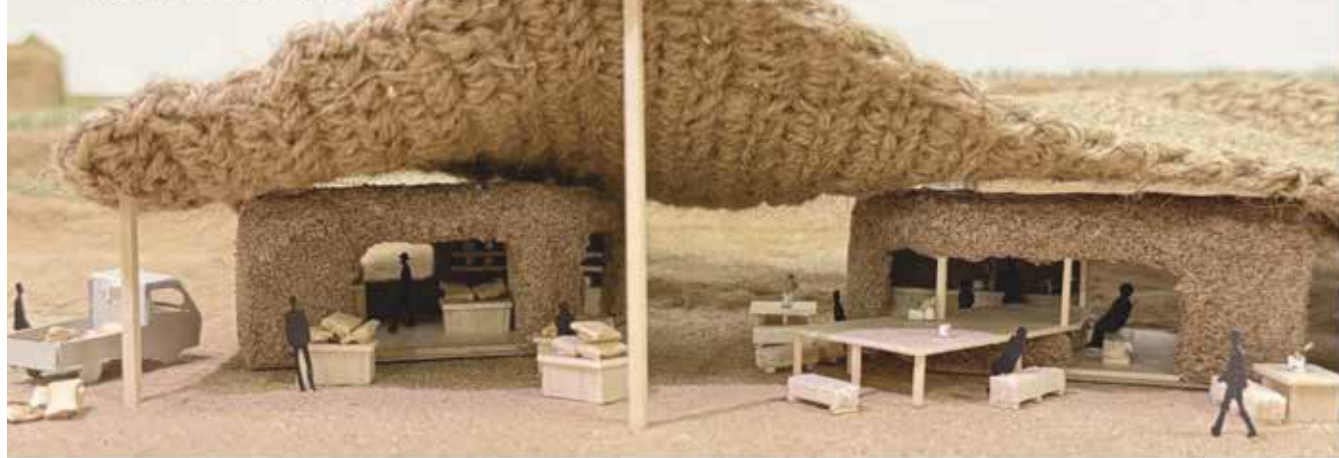


Like a building that is covered by a fence and completed without us noticing, we use the finished product without experiencing or knowing the process of its creation. For those living in modern times, experiencing the process of creation has become something distant. I felt that this is one of the causes of the sense of detachment in modern society. The process of taking time to create holds a value that can only be expressed by human beings. I strongly realized this while crocheting. I propose a space that allows people to realize and share the "joy of the creation process" and that users themselves can take time to create, by incorporating crochet into architecture.

囲いに覆われ気づけば完成している建物のように、私たちはその造られる過程を見ることなく完成形を当たり前のように利用する。現代を生きる者にとって、造る過程を体験することは縁遠いものとなってしまった。私はそれが現代社会における希薄感を生み出している原因の一つだと感じた。時間をかけてつくりだしていく過程にこそ、人にしか表現できない価値がある。編み物を編みながらそのことを強く実感した。“つくる過程の喜び”を人々が共有し、利用者が時間をかけてつくりだしていくことのできる建築を、編み物を建築に取り入れることで実現できないだろうか。時間をかける過程に対する価値を再認識するきっかけとなる場を提案する。



建築を編む
：藁と人であみだす場



講評
水越 英一郎

福岡県那珂川市に計画された農業を中心とするコミュニティ施設。本提案の興味深い点は、「時間をかけてつくりだしていく過程にこそ、人にしか表現できない価値がある。」といった考えの下、「藁を編み込んでつくる建築構法」の提案を主軸に、セルフビルドのものづくりと建設プロセスの共有によって、利用者間の共感を生み出すことの大切さを伝えている点にある。構法の可能性に着目し、現代建築では稀有な存在のセルフビルドの仕組みを農村の活動と関連づけ、「藁を編む」という行為自体をデザインの要素に取り込むことで、地域コミュニティを活性化させながら、地産地消の建築を提案している点は高く評価したい。編み物と建築を関係づける論理についても、「可変性」や「編み図」など、その汎用性や大衆性にまで触れており、まるで一遍の小説を読んでいるかのような世界観に引き込まれてしまう素敵な作品だと感じた。

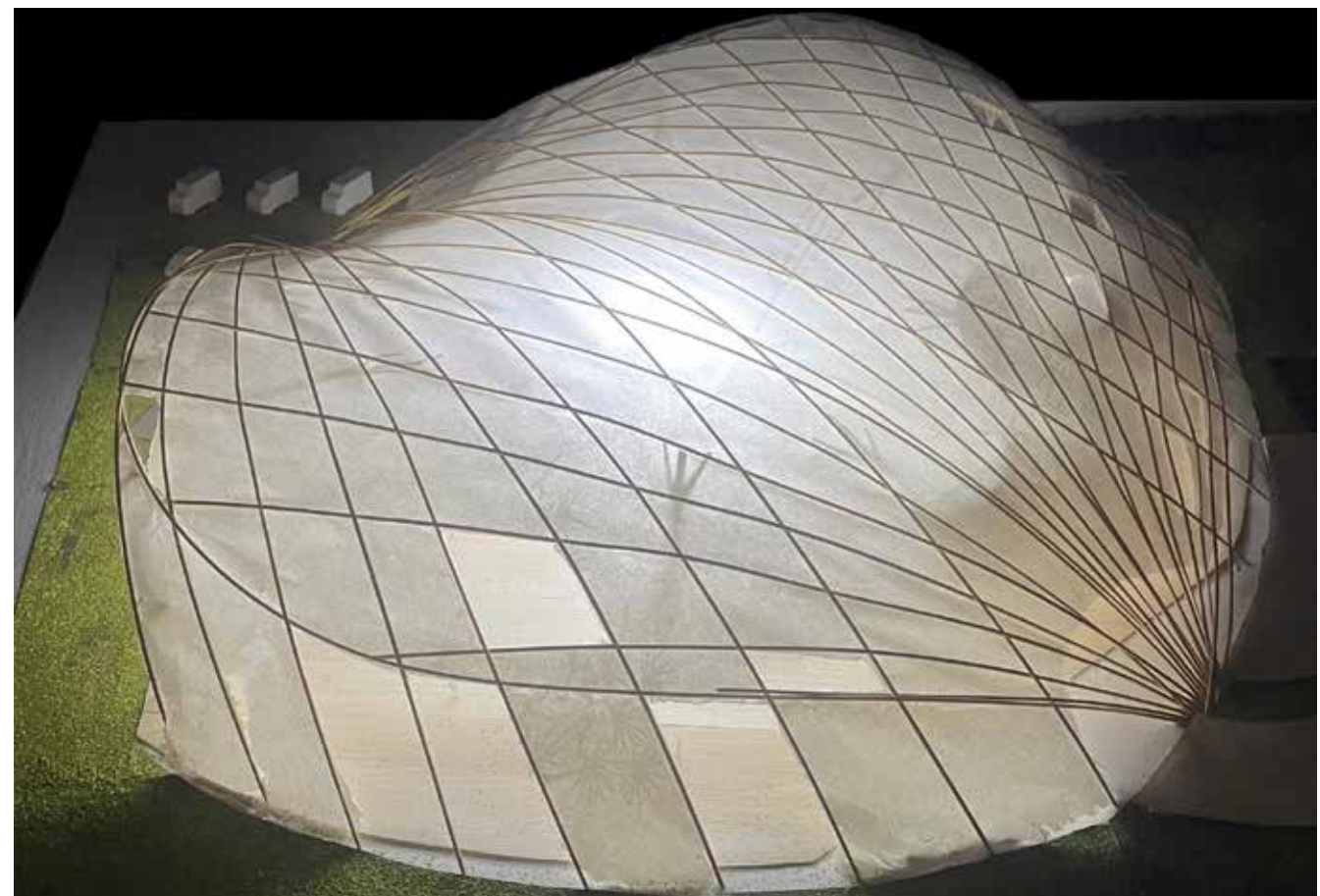
団扇で竹を仰ぐ

房州うちわと女竹のまち「館山」の継承

片岡 寛二郎 かたおか かんじろう 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科都市環境システムコース



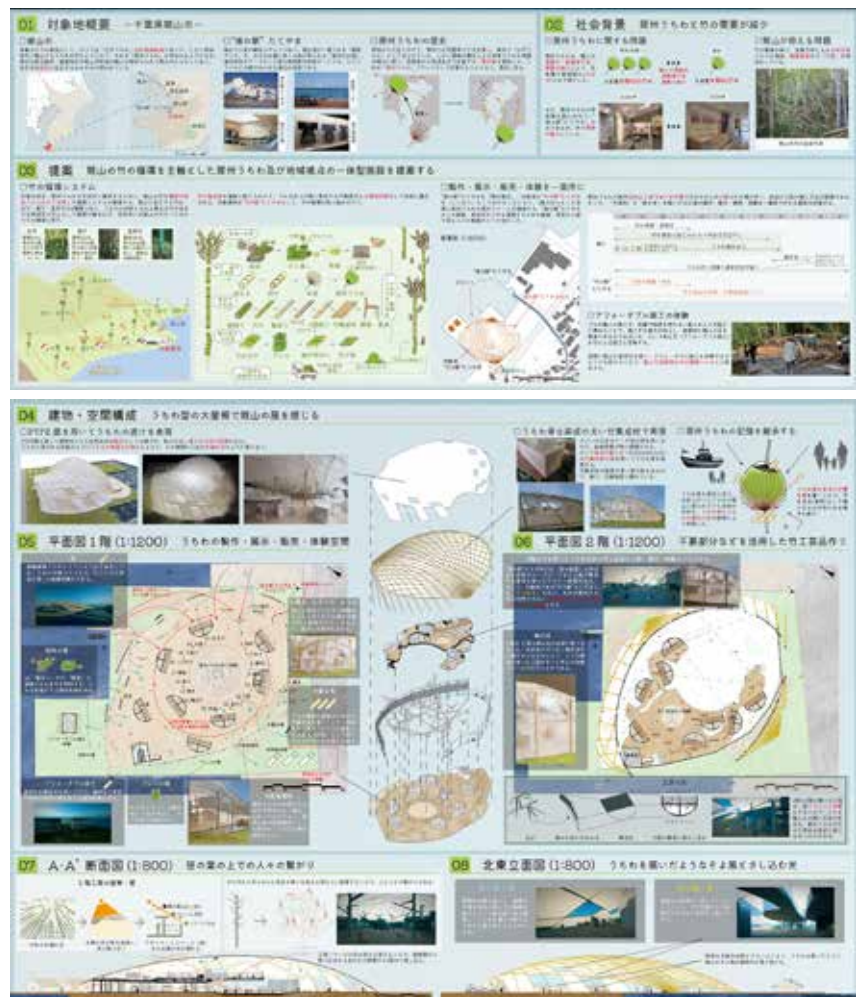
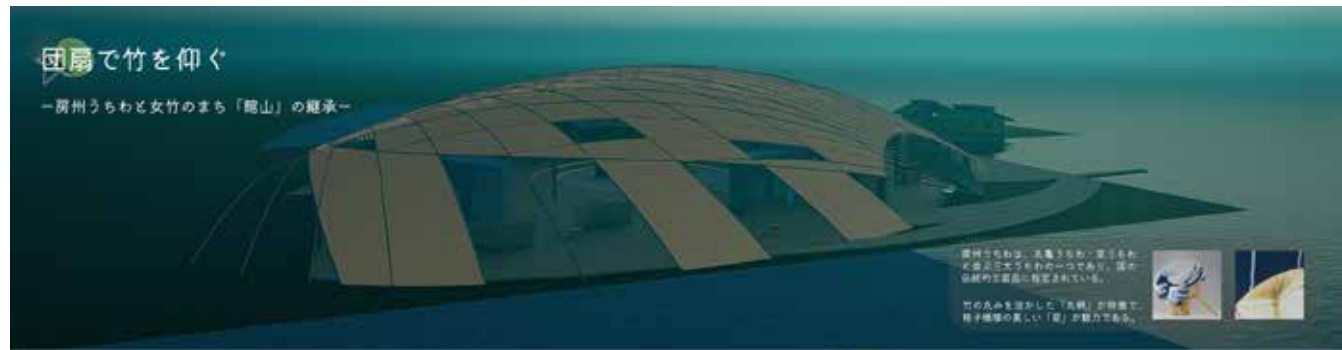
JSCA千葉・構造デザイン特別賞



Chiba is home to many undiscovered culinary, historical, and cultural treasures. Among these, Tateyama City, located at the southern end of the country, is a city where “bamboo” used to be a part of the lifestyle, including the traditional craft of “Boshu Uchiwa,” but is now disappearing. The production of Boshu Uchiwa has been drastically reduced due to declining demand and lack of successors, and the former bamboo forests are now suffering from bamboo damage caused by lack of management. So what is needed to preserve Tateyama's history and culture while introducing new attractions? I propose an integrated facility that integrates the Boshu Uchiwa and the regional center, with the circulation of Tateyama's bamboo as its main axis. The circulation circle will then spread outside of Tateyama, creating demand not only for Uchiwa using local bamboo, but also for laminated wood, bamboo charcoal, soil conditioner, and other bamboo products.

千葉には知られざる食・歴史・文化が数多く存在する。中でも南端に位置する館山市は、伝統的工芸品である「房州うちわ」を初めとして、かつては「竹」がライフスタイルの一部であったが、現在は失われつつある。房州うちわは需要の減少や後継者不足により生産量が激減し、かつての竹林は管理不足による竹害が問題となっている。

そこで館山の歴史や文化を残しながら、新しい魅力を発信するためには何が必要か。私は館山の竹の循環を主軸とした房州うちわ及び地域拠点の一体型施設を提案する。そして館山市外にも循環の輪が波及し、地場の竹を使ったうちわだけでなく、集成材や竹炭、土壌改良剤なども含めた竹の需要を創生していく。



講評
池田 格

良質な竹の産地であるという地域特性に着目した作品である。衰退の一途を辿っている“房州うちわ”の産地館山市を、竹をテーマとした観光産業で復興しようと試みる提案であるが、同時に竹の端材を利用した土壌改良材の生産や、竹産業の復活を原動力とした竹林の整備・保全の推進(竹害の解決)など、循環型社会を見据えた包括的な解決策を提案している点が興味深い。また、作品の特徴として団扇の屋根を通過したやわらかな光の中、人が思い思いに竹工房を見学し、竹細工を体験し、館山の竹産業の歴史に思いを馳せる心地の良い空間が完成している。

構造デザインとしても、団扇の骨を組み合わせて屋根を構築するという大胆な発想や、架構的なダイナミックさ、骨組みに竹集成材を利用している点など、今回の作品の中ではひとつ頭が抜けていたように思う。

慈雨礼賛 雨×自然×脱馴化装置

澤村 亮太 さわむら りょうた 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科建築学コース

特別審査委員賞 | 奨励賞 | JIA出展作品



We have abandoned rain. We have come to take for granted the fascinating phenomenon of rain, and it has become difficult to notice. Somehow we have lost the freshness of the rain. Through my research, I felt that people who have lived on Yakushima Island for many years, which has the most rainfall in Japan, have become particularly insensitive to the rain. This can be read from the fact that the culture of respect for nature is becoming weaker and that places to enjoy the rain and nature are not being created. What can architecture do to bring people's attention to nature, and to make rain a place to enjoy, even if only a little? This can be seen as "habituation" in the psychology of learning. We propose a place to confront the charm of nature and rain in Yakushima by incorporating the sequence of "acclimation" and "de-acclimation," a phenomenon that temporarily dissolves, into the design.

私たちは雨を捨てている。雨の魅せる事象を当たり前と感じ、気づきづらくなっている。いつしか雨に新鮮さを感じなくなってしまった。調査を経て、日本一雨の多い屋久島では長年暮らす人々は殊更、雨に鈍感になっているように感じた。それは自然を慈しむための文化が希薄化していること、雨と自然を楽しむ場所がうまく創出されていないことから読み取れる。少しでも自然に意識を向けるためには、少しでも雨を楽しむ場所として捉えられるためには、建築には何ができるだろうか。これは学習心理学における「馴化」と捉えることができる。「馴化」いわゆる「馴れ」と一時的に解消する現象「脱馴化」の一連の流れを設計に取り込み、屋久島の自然と雨の魅力に向き合う場所を提案する。



講評
水越 英一郎

世界遺産でも知られる屋久島に計画された自然現象を観察・体感するための施設。本作品の優れている点は、自身のリサーチから「屋久島は雨によって支えられている」という特徴を見出し、それを地域住民・観光客の双方に実感してもらうことで、屋久島の持続性を高めようとしている点にある。美しいグラフィックから作者の想いが伝わってくる。「馴化」・「脱馴化」という学習心理学を裏付けに、雨が生み出す様々な現象を可視化・体験化している点は、建築の本質を捉えた良質なものとなっている。一方、提案は観光客向けの装置のようにも見え、その雨が「地域生活を支えるグリーンインフラとして体感できる仕組み」には至っていないと感じた。このような事象まで建築化することができれば、地域住民は、雨が生活に不可欠な恵みとして再認識するだろう。地域住民への深い理解を促すことが、真の意味で屋久島の持続性を高める原動力になると感じた。

川越再群落化計画

時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ

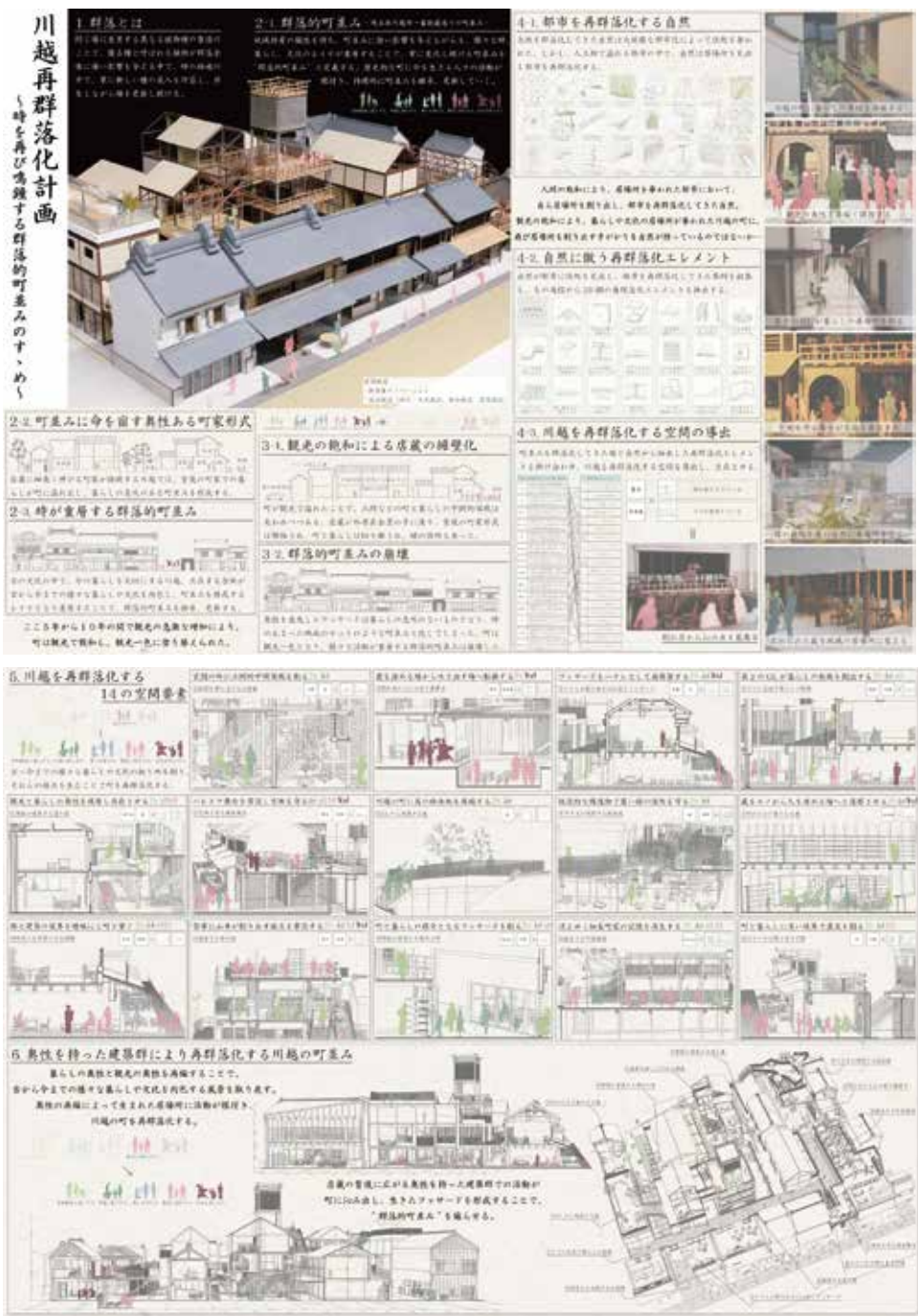
菊池 康太 きくち こうた 日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科

特別審査委員賞 | 奨励賞



Kawagoe is a town where the townscape has been inherited and renewed through the layering of machiya townhouses, which have a depth and encompass a variety of lifestyles and cultures, and which constitute the townscape. The town has become saturated with tourism due to the rapid development of the town as a tourist destination, and the place for life and culture has been taken away, and the community townscape, which was created by the layering of various activities, has collapsed. In this design, spaces that re-Gurakuka Kawagoe are derived and dotted around the town, following the example of nature, which, although deprived of its place due to rapid human saturation, finds its own place in a city overflowing with man-made structures and re-Gunrakuka the city. (Gunrakuka means that the peculiar individuality has a strong influence on the shaping of the place, but also means that the place is constantly renewed and inherited over time.) By reorganising the depth of life and the depth of tourism, and by protecting the space that has been the receptacle of life and culture, the landscape of Kawagoe, with its various layers of life and culture from ancient times to the present, will be restored.

奥性ある町家形式が様々な暮らしや文化を内包し、町並みを構成するレイヤとなり重層することで群落的町並みを継承・更新してきた町、川越。急激な観光地化により、町は観光で飽和し、暮らしや文化の居場所が奪われ、様々な活動が重層することで創られてきた群落的町並みは崩壊した。本設計では、人間の急激な飽和により居場所を奪われながらも、人工物で溢れる都市の中で自ら居場所を見出し都市を再群落化する自然に倣い、川越を再群落化する空間を導出し、町に点在させる。暮らしの奥性と観光の奥性を再編し、暮らしや文化の受け皿となってきた余地を守ること、古から今までの様々な暮らしや文化が重層する川越の風景を取り戻す。



歴史地区でありながら新しきものを受け入れ、常に変化を許容する持続的な街並みを「群落的街並み」と定義し、急速に観光に偏りすぎた川越で変化の調整を行う提案。魅力的な街並みが持続するための因子として住民の生きた暮らしが不可欠であるという仮説のもと、商店の裏側の住空間を再編している。作者の言葉づかいから過去の風景を取り戻すノスタルジックな提案であると思われかねないが、新しく挿入した路地は商業と住空間の中間領域として価値づけ、商業ファサードを透過させることで新しい魅力的な風景を創出している点や、地上階と上層階で空間構成を異にすることでプライバシーへの配慮がなされている点を読み取ると、意図されている新しいものを許容したうえの、前進的変容であることがわかる。



講評
馬場 亮平

カタワラに棲まう

寝殿造の空間構造から再考する老人福祉施設

佐藤 柳 さとう なぎ 千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科



なの花会賞 | 奨励賞 | JIA出展作品



Starting from the memory of my great-grandfather who met his end in a special nursing home, I refer to the spatial structure of Shinden-zukuri to reconsider the vague boundaries of a welfare facility for the elderly.

The site is on a slope in Zao Ueno, Yamagata Prefecture. In contrast to welfare facilities that tend to be closed and isolated, this plan combines support functions with the history of the region and builds new relationships. The 11 spatial structures found in Shinden-zukuri, with the concepts of "Ura-Omote" and "Uchi-Soto," gently segment boundaries through "actions". Applying this structure, we create a place where facilities and local communities, and people, interact naturally.

We hope that the facility created in this way, with its vague boundaries, will bring vitality to the area.

特養で最期を迎えた曾祖父の記憶を原点に、寝殿造の空間構造を参照し、曖昧な境界を持つ老人福祉施設を再考する。

敷地は山形県蔵王上野の傾斜地。閉鎖的・孤立的になりがちな福祉施設に対し、本計画では支援機能と地域の歴史を重ね、新たな関係性を築く。寝殿造に見られる〈ウラ-オモテ〉〈ウチ-ソト〉の概念を持つ11の空間構造は、境界を「行為」によって緩やかに分節する。この構造を応用し、施設と地域、人と人が自然に交わる場を生み出す。

こうして形成された曖昧な境界を持つ施設は、地域にとって元気をもたらすものであって欲しい。



講評
馬場 亮平

昨今地域ケアの観点からますます推進される、福祉施設を開くことの難しさに真摯に向き合った提案。自身が通った特養の経験が着想の基であることから、開くことと心休まるプライバシーという現実的な矛盾を受け止め、寝殿造りの行為によって分節される空間構造にその矛盾を調停する糸口を発見している。歴史的レファレンスの分析と要素抽出を頼りに設計する場合、とすれば単なる過去の遺物の焼き直しになりかねないが、オリジナリティのある新しい建築にまで昇華できている点を評価したい。勾配のある敷地選定は空間に動きを与え、棚田をモチーフにした屋根形状はマクロ的風景をつくり、碑石をたどる道は建物内を縦横無尽に走らせることで固くなりがちな空間構成に風穴を開けている。それぞれの着眼点は単体でも頭を悩ますようなテーマの全部盛、にも関わらずまとまりのある建築になっているあたりに作者の稀有な設計センスを感じる。



もりスポ 吹抜けが繋げる歪さ

青木 花梨 あおき かりん 日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科



市民賞 | 奨励賞



Morispo: A New Sports and Commercial Hub for Yashio City
Yashio City, my hometown in Saitama Prefecture, has developed as a bedroom community following the opening of the Tsukuba Express, attracting many families with children. To move beyond its role as a commuter town, I propose “Morispo”, a mixed-use sports and commercial facility centered around urban sports.
Morispo integrates activities into the building itself: skateboarding on the rooftop, parkour on the exterior walls, and bouldering at its core. This design blurs the boundaries between architecture and activity, creating intermediate spaces that connect the sports areas with commercial facilities, making the space more inviting for the community.
Urban sports have evolved by adapting to city spaces in a spontaneous, guerrilla-like way. Morispo serves as a dedicated venue for these activities while also contributing to Yashio's branding. It aims to become a vibrant third place where young people can gather and interact.

私の地元である埼玉県八潮市は、つくばエクスプレスの開通により子育て世帯の移住が進み、ベッドタウンとして発展してきた。そこで、「ベッドタウン脱却」を目指し、アーバンスポーツを中心とした複合商業スポーツ施設「もりスポ」を提案する。
屋上にスケートボード、外壁にバルクール、中心にボルダリングを配置し、建築全体をアクティビティで覆う計画とした。これにより、建築の境界を柔らかくし、内部の商業施設とつながる中間領域を生み出し、市民に開かれた空間をつくる。
アーバンスポーツは、都市をゲリラ的に活用して発展した。「もりスポ」はその受け皿となると同時に、八潮市のブランディングを担い、若者が集うサードプレイスとなることを目指している。



講評
磯野 智由

スポーツを構成する要素が建築空間に変化する。建築とは切り離されていた各アーバンスポーツのステージが、建築と一体化されて構成されているのが魅力的な案だと思いました。また。模型を見ると都市的な構造フレームと緑を立体的に取り入れて、もりスポというタイトルらしく。楽しそうな公園的な空間が出来上がっているのが良かったと思います。そうしたわかりやすさは、コンペで勝上では大変重要な要素です。市民賞という賞で、皆さんからも支持を得たことをしっかりと自信に繋げて、今後の活躍に活かしてください。実際に利用するシーンをもう少し見つめると新たな発見、この建築の楽しみ方が加わったのではないかと思います。より具体的にシーンを考える事で、楽しさや新たな環境が生まれる要素がある可能性に満ちた提案だと思います。



繋ぐ

ヴァナキュラーネットワークの再構築

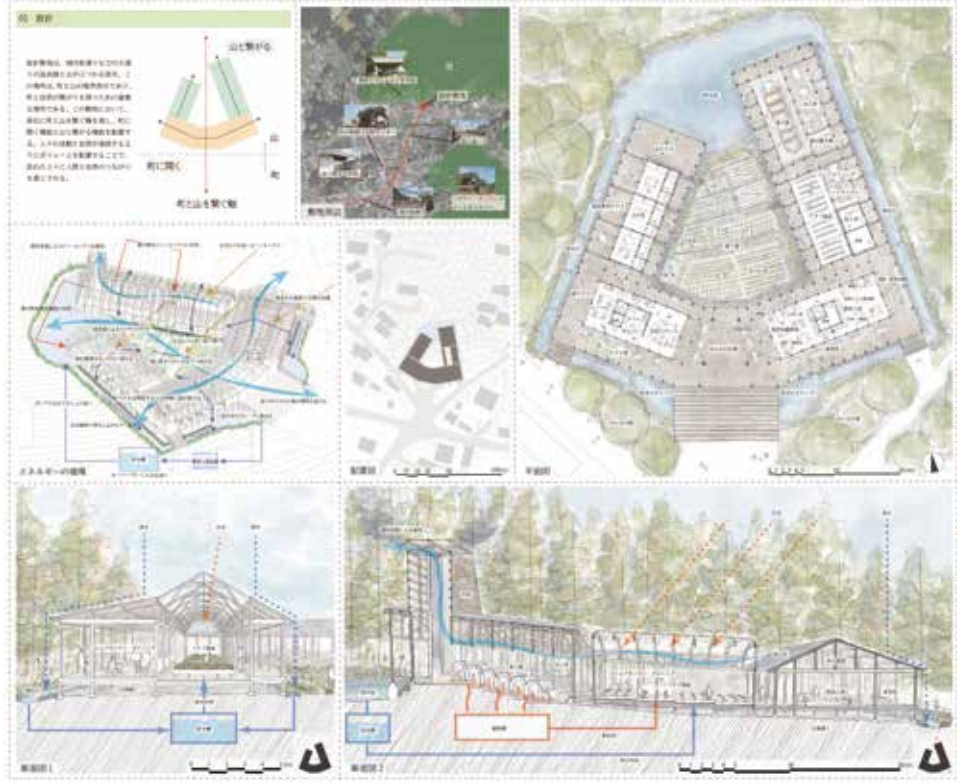
平田 雅也 ひらた まさや 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科建築学コース

奨励賞



This proposal is intended to provide an opportunity to restore and revive the original strength of a rural area that has been in decline. The subject site, Mashiko Town in Tochigi Prefecture, is an attractive town with rich nature and a long history of pottery and agriculture. In recent years, however, the town has been facing issues such as the decline of local industries and the weakening of the local community. Therefore, this proposal aims to reconstruct the connections (vernacular network) of people, things, and energy rooted in Mashiko's land, and to create synergy through mutual collaboration, thereby revitalizing the entire town of Mashiko. The facility will serve as the nucleus for the formation of a network throughout Mashiko Town by providing a place where people of various kinds can gather and interact.

本提案は、衰退してしまった地方の本来の力を取り戻し、復興するきっかけを与えるための提案である。対象敷地である栃木県益子町は、豊かな自然を有し、古くから陶芸や農業などを生業としていた長い歴史を持つ魅力的な街である。しかし近年、地場産業の衰退や、地域コミュニティの希薄化などの課題を抱えている。そこで、本提案では、益子の土地に根付いたヒト・モノ・コト・エネルギーの繋がり（ヴァナキュラーネットワーク）を再構築し、相互に連携することで相乗効果を生み出し、益子町全体を復興することを目的とする。様々な種類の人が集まり、交流する場となることで、益子町全体にネットワークを形成するための核となる施設である。



講評
高梨 修

益子町の地場産業の衰退、地域コミュニティのつながりの希薄化などを課題としてとらえ、町全体のネットワークを形成する核となる施設、交流の場の計画である。土地に根付いた暮らしの5原則と益子町のバナキュラー遺伝子を抽出する2段階のリサーチに基づき地域特性を建築条件の手がかりとしながら再構築する設計手法、町の中心市街地と山間(自然)に敷地を設定した着眼点、建築が山につながりながら町に開き、利用者の活動空間と自然が連続するような配置、平面計画など設計全体のプロセスが明快であり、図面、模型の表現力も高く評価できる。町全体にネットワークを形成するシステムづくりがイメージしにくい点はあるが、土地の暮らしや産業を人、もの、コト、エネルギーなど益子町の土着的な要素を内部、外部の空間に融合させ、木構造と勾配屋根、外観が周囲の山に調和するデザイン、雨水や太陽光の利用、自然換気を取り入れるなど環境にも配慮した総合的な設計力に優れた作品である。



西尾久blossom

集住・商店街に咲かせる賑わいの場

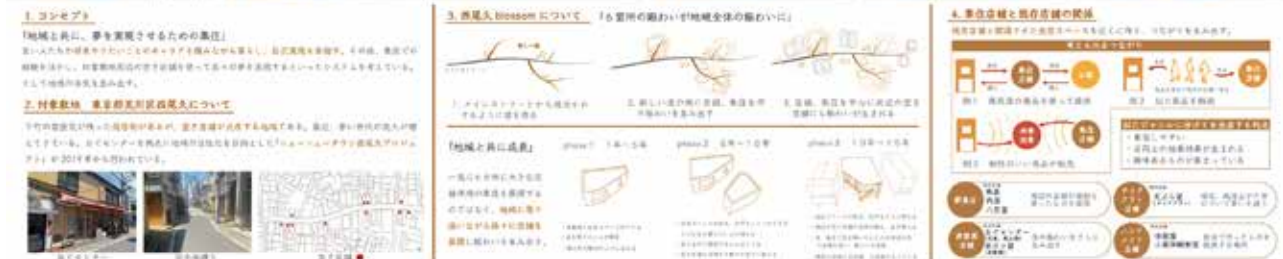
若林 大輔 わかばやし だいすけ 千葉工業大学 / 創造工学部 / デザイン科学科

奨励賞



Currently, the weakening of local communities has become a social issue. Survey results show that younger generations in particular have little interaction with their local community, and human connections are becoming weaker. Therefore, we propose a housing complex that also serves as a store, incorporating spaces and mechanisms that encourage human interaction and local interaction. The target site is Nishi-Ogu, Arakawa Ward, Tokyo. The area has a shopping street that retains the atmosphere of a downtown area, but is dotted with vacant stores. We have considered scattering stores of different genres and housing complexes in six locations along the shopping street, so that we can create more connections and synergies with existing stores in the area. We hope to create the charm of individual stores and the atmosphere of a bustling shopping street, and to spread the movement to utilize vacant stores.

現在、地域コミュニティの希薄化が社会問題となっている。特に若い世代は地域交流が少ないという調査結果があり、人のつながりが希薄になりつつある。そこで人との関わりや地域交流を促す空間と仕組みを取り入れた店舗併用の集合住宅を提案する。対象敷地は東京都荒川区、西尾久。下町の雰囲気が残った商店街があるが空き店舗が点在する地域である。商店街沿いにジャンルの異なった店舗、集住を6カ所に点在させ、より周辺の既存店舗とのつながりや相乗効果を作り出すことができるように検討した。個人店の魅力、賑わった商店街の雰囲気を生み出し、空き店舗を利活用しようとする動きが広がることも期待している。



講評
川口 有子

空き店舗が目立ちつつある西尾久の商店街での計画だが、商店街のメインストリートではなく、そこから枝分かれする道や、抜け道、奥まったところに目を付けたのが面白い。枝分かれした道に沿って建築することで、若い人が一人で始めるような小さな店をたくさん作ることができる。メインストリートよりも少し安く借りられるかもしれない。毛細血管のように道が伸びて、ゆっくりと商店街に血が通いだす。そうしてできた小さな店が路地に顔を出す様子が、とても魅力的に表現されていた。商店街の界限性を失わずに、新しい人を呼び込む仕組みが、このようにできたら大変良いと共感できた。とても具体的に、現実的に考えられている案と思う。

50,000㎡の間

陥没地再生と記憶の再資源化計画

吉田 キラリ よしだ きらり 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科都市環境システムコース



奨励賞



My hometown of Oya, Utsunomiya City, has prospered from the Oyaishi (Oya Stone) mining industry. However, as the amount of ore mined has decreased, excessive mining in the past has caused large scale cave-ins, which have caused unrest in the town and destroyed its natural environment. The town was reclaimed, but even after reclamation, the area remained off-limits for decades, becoming a “pause” in the town. Therefore, we designed a facility to learn and pass on memories to the surrounding community, as well as to restore nature by filling the sunken area with water and turning it into a biotope. The project will utilize the characteristics of Oyaishi and the space created by past mining. The project will break away from the negative legacy of the sinkhole by transforming it from a negative legacy of a sinkhole into a biotope park, a place of natural beauty and beautiful scenery. This is a proposal to create an opportunity to walk with the sinking that may occur in the future.

私の地元である宇都宮市大谷町は大谷石採掘業で栄えた街である。しかし採掘量が減るにつれ、過去の過度な採掘により大規模陥没が発生し、街に不安をあたえたと共に自然が壊れてしまった。埋め立てを行うものの、埋め立て後も何十年もの間立入禁止区域になり、まちの「間」となってしまう。そこで陥没地に水をため、ビオトープ化することで自然を取り戻すとともに、周囲に記憶を学び、伝えるための施設を設計する。大谷石の特性や過去の採掘によりできた空間などを活用する。陥没地という負の遺産からビオトープパークという自然豊かで美しい景観の場所に変えることで負の遺産からの脱却を図る。これは今後もし起きうる陥没と共に歩むきっかけを作る提案である。



講評
池田 格

建築材料として有名な大谷石であるが、その長年に渡る採掘の負の遺産としてこのような大規模陥没が生じていることを私は知らなかった。50,000㎡もの広大な敷地がこのの先何十年も立ち入り禁止になるという衝撃的な問題に対して、町の負の遺産をなんとかして"観光資源"に転換させたいという地元の人間の切実な思いがこの作品には感じられる。陥没により壊れた自然、荒廃した周

辺地域に対し、被害を無かったことにするのでは無く、利用できる環境資源は積極的に利用し、過去を記憶したまま再生させるという視点で、"埋め戻し+ビオトープ"と"記憶を体験する施設群"という解決策にたどり着いている。純粋な商業施設としてはまだ集客力が弱い気がするが、その点を工夫して克服することが出来れば、この切実な問題に対しての最適解に近い提案と言っても過言ではないだろう。

まちなか学生拠点

地域と建築学生をつなぐ「学びの空間」

小笠原 愛夏 おがさわら あいか 日本大学 / 短期大学部 / 建築・生活デザイン学科

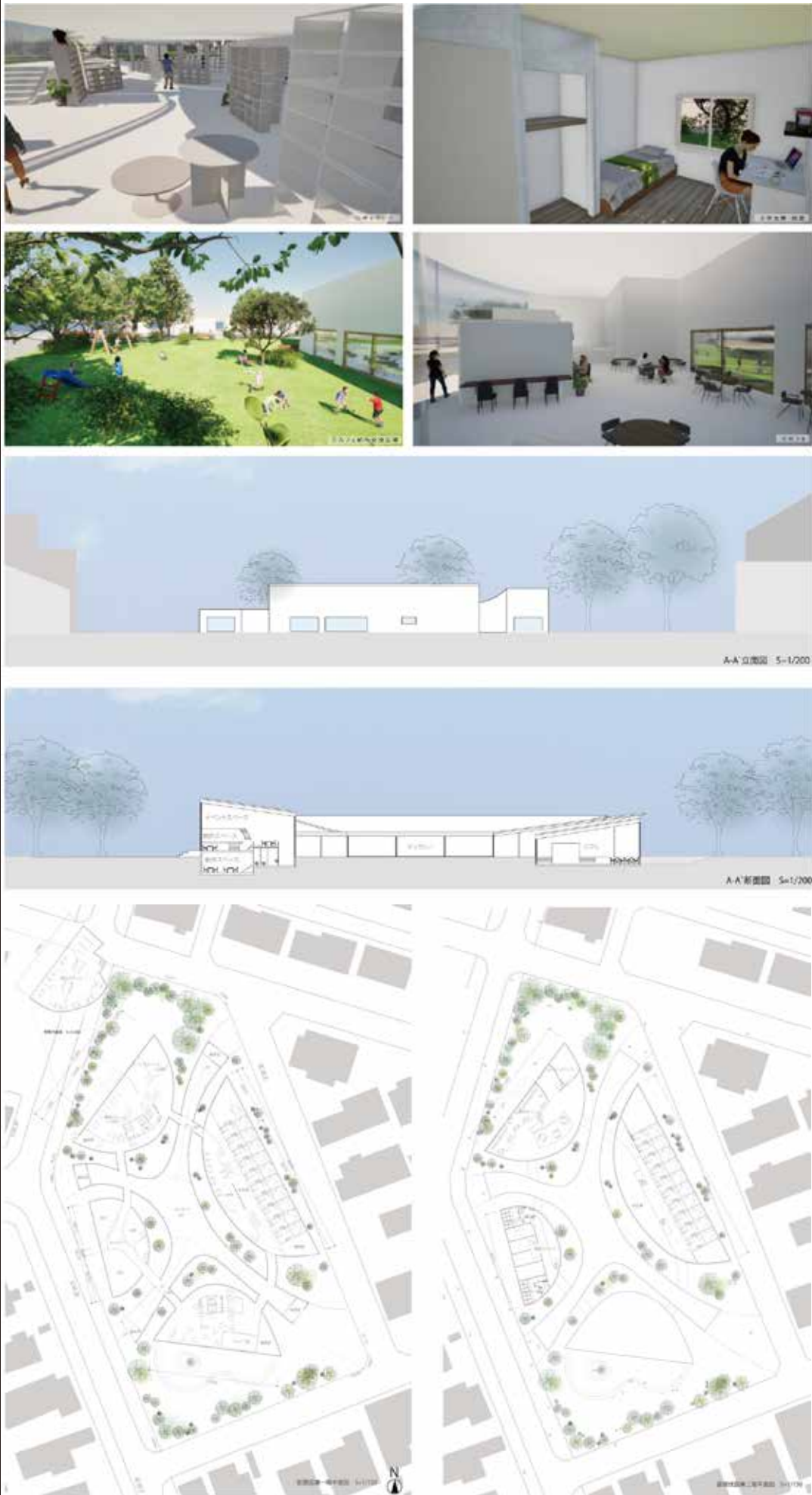


奨励賞



This project is a proposal for a “learning space” mainly for architecture students enrolled in the four architecture-related departments at the Nihon University College of Science and Technology (Funabashi Campus). Specifically, it consists of four functions: a “creative space” where students can work on design and drafting assignments; a “gallery” where students’ work can be displayed and stored; an “event space” where students and local people can interact; and a “student dormitory”. In this space, students can teach each other the knowledge they have learned about architecture, and through dialogue they can cultivate a deeper knowledge. It is hoped that this will become a new “place of creation” where students can interact with each other beyond the boundaries of their year and department, and that it will also become a place where local people can learn about architecture.

本プロジェクトは、日本大学理工学部(船橋校舎)に設置されている建築系4学科の建築学生をメインとする「学び空間」の提案である。具体的には、設計製図などの課題を制作できる「創作スペース」、学生作品を展示・保管ができる「作品ギャラリー」、学生と地域の人が交流できる「イベントスペース」、そして「学生寮」の4つの機能で構成している。この空間では、学生が日ごろ学んでいる建築に関する知識を互いに教えあい、対話を通してより深い知識を育むことができ、建築への関心や学びの意欲向上することで、学生同士が学年・学科の枠をこえて交流できる新たな「創造の場」となることを想定している。また学生だけの建築ではなく、地域の人たちが「建築」を知るひとつのきっかけとなる場所として賑わうことも期待している。



講評
蒲生 良隆

計画建物は学生にとって便利で、勉学に励むのに理想の環境の場所で、住まいながら使える夢のある施設として提案されている。

学生作品の展示スペースには常時模型や建築図面などが掲示され、地域のコミュニティーの場ともなる空間で各エリアを外部から、アプローチできる動線を確保している。地域住民が建築学生を理解していただけるようにとの思いが伝わってくる作品です。

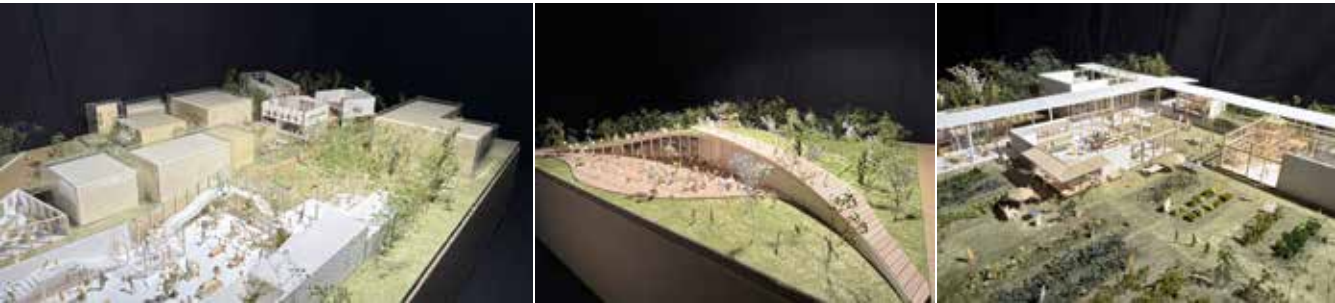
既存の公園を潰して建設するからには緑をどのように残し近隣住民の静かな環境を残せるか、地下空間の利用や緑地帯の計画をもう少し考えればより良い提案となるであろう。

めぐり続けるぬくもりのまち

循環型地域子育て扶助の空間

江頭 古都奈 えがしら ことな 日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科

奨励賞



Today, local communities are growing weaker and weaker. However, by nature, children should be raised and supported by the entire community. What can be done to create a warm and long-lasting community where ties transcend generations and where the entire community helps each other like a family? We proposed a space where children, parents, and the elderly can interact with each other in Miyashiro-cho, Saitama Prefecture. We created a place for local residents by connecting the town, existing facilities, and designed facilities at four sites attached to existing facilities in the town, using different methods. There are places and people in the town that can be relied upon at every stage of life. By designing a space where multiple generations can naturally interact, we aimed to expand the circle of mutual aid.

地域コミュニティの希薄化が進む現代。しかし、本来、こどもは地域全体で育て、支えあいながら暮らして行くものである。世代を超えたつながりが生まれ、まち全体が家族のように助け合い温かく、永く続くコミュニティを生むためにはどうしたらよいか。

埼玉県宮代町を対象に子ども・親・高齢者が共に関わり合える空間を提案した。まちに既存する施設に付随した4つの敷地においてそれぞれの手法でまちと既存施設、設計施設を繋ぎ、地域住民の居場所を創出した。

どのライフステージにおいても町の中に頼れる居場所があり、頼れる人がいる。多世代が自然に交流できる空間を設計することで、共助の輪を広げることを目指した。



講評
高梨 修

子育ての課題、支援施設の抱える課題を多世代で対応できる環境づくりを行い、社会的つながりを保つことで次世代に循環する支援を実現するための提案である。計画場所は埼玉県宮代町、周辺には市役所、保健所、病院などの公的施設が近距離に集約された4つのエリアを選定し、既存施設と計画施設が相互に影響を与え合い地域のネットワークが形成されることを意図している。4つのエリアの建築は環境条件、特性を詳細に調査、分析しながら多世代が活動しやすい機能で構成されていて、内外のつながりや感覚のデザインを空間づくりに活かしているところも興味深い。多世代が交流することで生まれる社会的つながりにより、循環型支援がどのように構築されていくのか課題はあるが、あえて複合型の施設ではなく、4つの計画施設に性格の異なる建築を既存施設に隣接して分散配置することで地域の拠点化を図る考え方は既存施設との相乗効果を生み、子育て支援、地域コミュニティの活性化につながる有効な方法になると思う。

つながりが生まれるところ

高取 可奈 たかとり かな 千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科
戸嶋 優稀 としま ゆうき 千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科
三谷 秀光 みたに ひでみつ 千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科

奨励賞

In Chisirodai, Chiba City, Chiba Prefecture, the declining birthrate, aging population, and deteriorating buildings have become problems. Aiming to restore the vitality of the community, the project plans to rebuild a nursing home, nursery school, and community center on the former site of Chisirodai Minami Elementary School, which was closed due to the declining birth rate. The symbiosis of the nursing home and nursery school with the plaza and community center in the center, where children's voices and visible loose connections can be heard and seen, will be a place for interaction with local residents. Spontaneous activities among young children, the elderly, and local residents will be generated to form a new common space filled with vitality.



千葉県千葉市千城台では少子高齢化と建物の老朽化が問題になっている。地域の活力を取り戻すことを目指し、少子化の影響で廃校となった千城台南小学校跡地に老人ホームと保育園、公民館の建て替えを計画する。広場と公民館を中央に配置した老人ホームと保育園の共生の場は、子供たちの声や目で見えるゆるやかなつながりは、地域住民との交流の場となる。幼児、高齢者、地域住民の自発的な活動が生まれ、活気に満ちた新しい共用空間の形成を目指す。



さいごに
特別養護老人ホーム和暖園と千城台東第一保育所の屋根の形状は違うものの素材の見た目を揃えることで幼老施設のような一体感が生まれるように計画した。今回の計画では、どちらも入居者、園児、職員の動線を確保しながら、相互のコミュニケーションを取ることができる空間を設計することができたと思う。



講評
蒲生 良隆

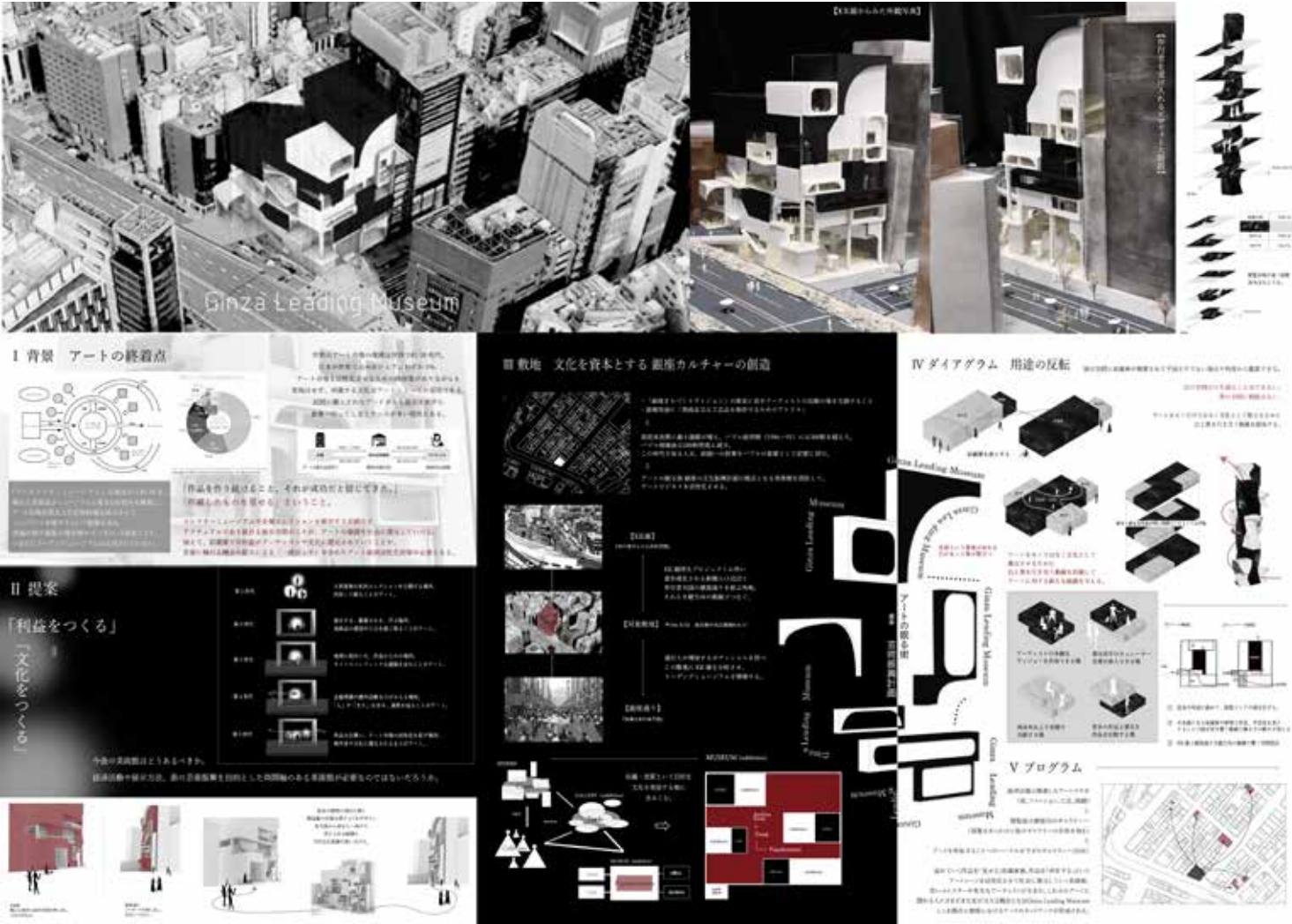
既存の公共施設跡地利用として千葉市が公募した土地への提案である。特別養護老人ホーム個室型多床室タイプを三層に分けながら、食堂、ラウンジも全体の雰囲気を感じられ光や開放感が得られる工夫がされている。併設される保育園のほうは0、1才を2才児以上の部屋とゾーニングを分ける配慮をして各室共に明るく広い空間になるよう設計されている。全体建物が同一になるよう屋根材を同じ仕上げとして統一感を出すようにもしている考え方は良い。保育園、既存公民館、老健施設の複合計画として、敷地には高低差がありエリアを3つに分けているが、三施設のつながりを丁寧に考えたいところである。緑地だけのつながりのほかに散歩回遊動線や子供の遊び空間などランドスケープも検討してみると、もっと豊かな複合施設となるでしょう。これから先のステージでの設計活動に期待します。

Ginza Leading Museum

アートの眠る街『銀座』振興計画

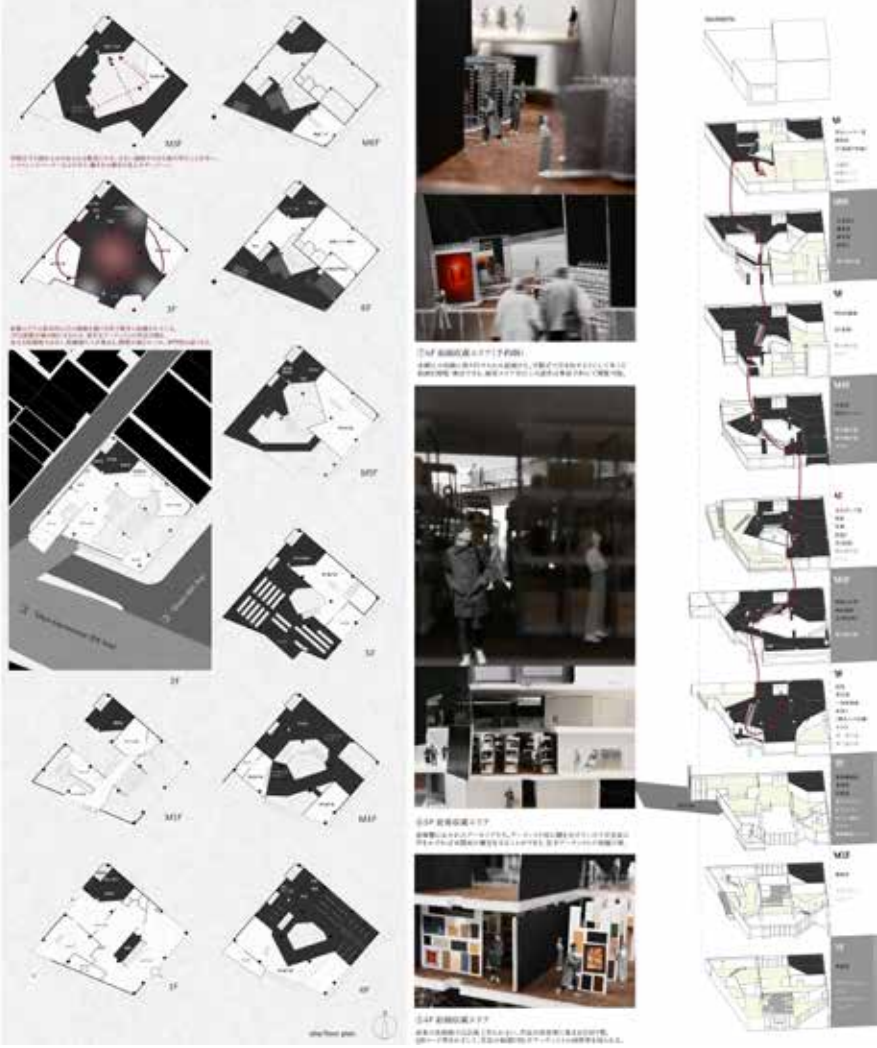
菅谷 心洋 すがや みひろ 東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

奨励賞



I've always believed that being able to keep making work, that's what success is." says an artist. The end point of the overflow of works is the repository, the graveyard of art. With "making profit" and "creating culture" as synonymous, the artist designed an art museum that includes the elements of "collection and sale" in Ginza, where nearly 200 galleries still exist, to revitalize the art business. This is a proposal for a next-generation art museum that interweaves the exhibition rooms (white) where prominent artists' special exhibitions are held with the gallery and storage area (black) for young artists who will be responsible for the future of culture. The leading museum, which combines fairness and contingency, will be used as a base to promote culture in Ginza, a district where art is still alive.

「作品を作り続けられること、それが成功だと信じてきた。」とあるアーティストは言っている。そして、溢れ続ける作品の終着点は、アートにとっての墓場である収蔵庫。「利益をつくること」と「文化をつくること」を同義として、200軒近くのギャラリーが遺る銀座で「収蔵・売買」という要素を含み込んだ美術館を設計して、アートビジネスを活性化させる。著名なアーティストの企画展が催される展示室(白)と、今後の文化を担う若手アーティストのギャラリー兼収蔵庫(黒)を織り交せた次世代の美術館の提案。公平性と偶発性を持ち合わせるリーディングミュージアムを拠点に、アートの眠る街『銀座』で文化を振興していく。



講評
馬場 亮平

アートを単なる資産としてタンスに眠る貨幣のように扱われていることに危機の念をいだき、本来アートがもつ身体感覚的価値をストレートに社会に提示できる環境づくりを目指した案。作者はアートの投資資産としての側面が現代の芸術文化を支えていることを批判的に肯定した上で新しい価値創造に挑戦するという、絶妙なバランス感覚を持っていると感じた。日本のアーティストは売ることが苦手と言われてきたが、昨今のSNSの浸透と

美術教育の意識変化から、ギャラリーに所属せずアーティスト自身によるオンラインでの販路が開拓されてきた。若手アーティストにとって美術館という、オープンでフィジカルなアート体験を提供できる場は今後のアートシーンにさらなる変革をもたらす可能性を感じた。何より従来の美術館的役割を果たす静謐な白の展示室と、高密度でエネルギー溢れる黒の収蔵展示室が常に隣り合っている空間構成にワクワクした。



幕張モンパルナス

文化の発信拠点 千葉県立京葉工業高等学校 / 建設科 武村 宗一郎 たけむら そういちろう

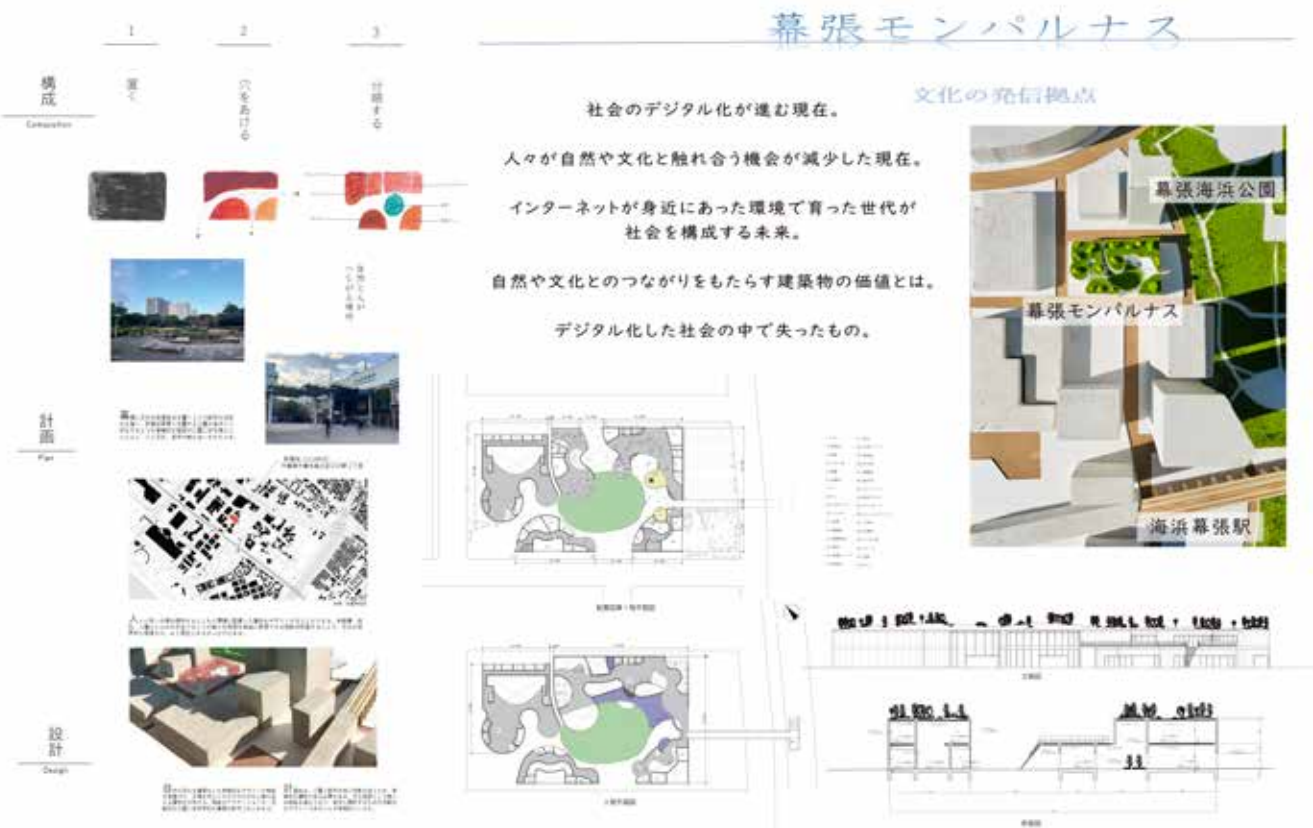


奨励賞

幕張に文化の発信拠点を置くことで都市の活性化を描く。計画地南東に位置する公園の自然と一体化するような有機的な施設が公園と駅を結ぶことにより、人と文化、自然の触れ合いをもたらす。

人々に憩いの場を提供するとともに環境に配慮した建物をデザインし、年齢層、性別、人種にとらわれずすべての人々が個々の発想を自由に表現できる施設を計画することで、文化が世界中に発信され、より身近となるきっかけになる。

計画地は、公園と都市を結ぶ役割を担うため、有機的な建物である必要がある。文化施設として様々な機能を備えて且つ、自然と調和するための流動的なデザインであることが有機的といえる。



講評

磯野 智由

ナチュラルに人を集め、欠かせない場所として存在させていくには、このテーマをもって、人の流れから自然と集まってくる動線計画や、新たな世代が興味をもち、集まりたくなる用途をもった施設の提案で大変魅力的ですね。建築の造形的にも曲線を多用し、豊かな空間性のある建築と、リズムカルやフラクタルさもある建築を感じます。また、屋上面の緑化、公園化も良い提案で、様々な世代が集まれる建築となるのではと想像できます。今後も形をつくることを大いに楽しみながら建築を学んでいってください。

みんなの「はなれ」

千葉県立東総工業高等学校 / 建設科 林 楓月 はやし ふつき



奨励賞

千葉県香取市佐原は、古くは水運業でさかえ、小野川沿いは当時の町並みが残り「水郷の町」として、主に観光でにぎわっている。

その反面、他の地方都市と同様に、人口減および少子化で佐原地区の小学校は統合され、佐原小学校にこの地区の子供は通学している。

歴史地区の中には、さわら町屋館や佐原町並み交流館などの、観光客向けの施設はあるが、通りを遊びの場としていた子供たちや生活の場としていた高齢者の方などの、町の人の居場所は減少している。

私は地域の人々や子供たちが、気軽に使える、「はなれ」のように気軽に立ち寄れる場所を提案する。佐原地区に住む子供たちや町の人々がこの「はなれ」で交流し、佐原の歴史や文化に触れ、貴重な町という意識や愛着を深め、世代を超えて伝統や文化を、自然と受け継いで行く場となることを目指す。



講評

池田 格

現在観光地化してしまった水郷佐原を地元の人々の居場所として取り戻すため、交流の場として提案した作品である。水郷佐原の歴史的な伝統を受け継いだ外観と、その時々目的や気分に応じたいろいろな交流空間が用意されているのが面白い。

ただ交流を促すだけでなく、地域の祭りやイベントの中心になる機能を持たせても良かったのではないかと。

結ぶ

千葉県立市川工業高等学校 / 建築科 神代 優羽 こうしろ ゆわ



家族全員が好きな本を核とし、個々の時間も大切にしつつどこにいても家族の存在を感じさせる設計とした。

核であるリビングは四方から光が差し込み、時間の移ろいを映し出す。

そして、玄関先の公園に広がる自然が一人一人に活力を与え、玄関前の中庭は帰宅後、心が一息つく場となるよう、外と中が一体となる空間を創りだした。

市民賞 | 奨励賞



講評

蒲生 良隆

図書コーナーをリビングに面して設け、読書スペースを設ける考え方は本好きな家族の楽しい空間となることでしょう。

見た目の外観も綺麗で木のデッキ材などとグレーの外壁とのコントラストが美しい。

玄関ホールから中庭を望む空間も素晴らしいです。直線的に公園を見せる工夫により、視覚的に狭くして、外で広げるところもとても良いです。



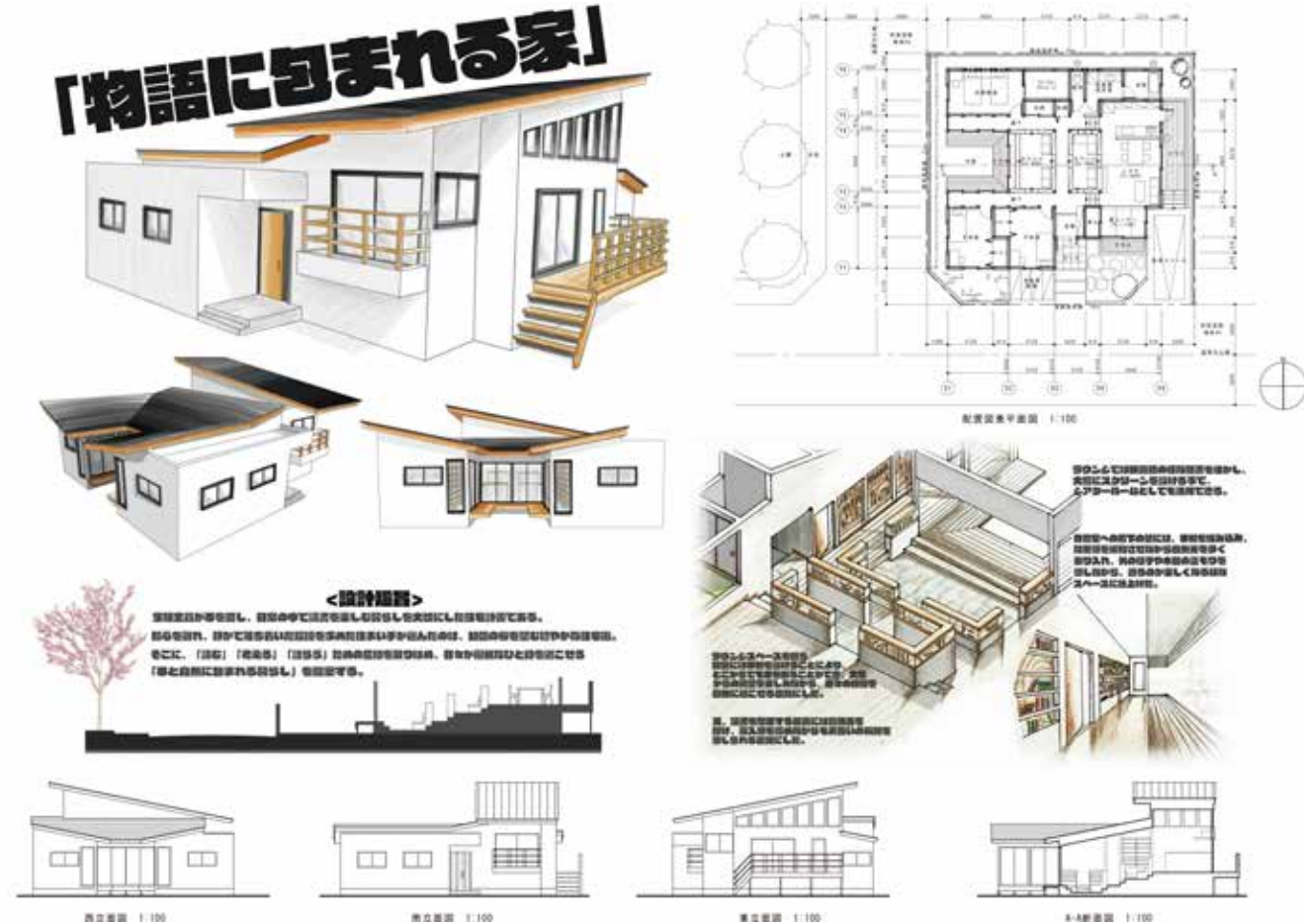
物語に包まれる家

千葉県立市川工業高等学校 / 建築科 湯浅 翔永 ゆあさ しょうえい



家族全員が本を愛し、日常の中で読書を楽しむ暮らしを大切にしたい住宅計画である。都心を離れ、静かで落ち着いた環境を求めた住まい手が選んだのは、公園の桜を望む穏やかな住宅街。そこに「読む」「考える」「語らう」ための空間を散りばめ、各々が優雅なひと時を過ごせる「本と自然に包まれる暮らし」を提案する。

奨励賞



講評

高梨 修

LDK、子供室、夫婦寝室がラウンジを囲むように配置され、自然採光やプライバシーにも配慮した機能的な平面プランとなっている。勾配屋根やハイサイド窓が外観デザインの特徴となっており、勾配天井のインテリア空間にも変化を与えている。床のレベル差や本棚がリビングとラウンジの緩やかな繋がりをもち落ち着いた空間になっていると思います。

木蜜の矩形長屋 密に暮らす下町に新たな暮らしの蜜を創り出す

千葉県立千葉工業高等学校 / 建設科 寺門 優弥 てらかど ゆうや



特別展示



講評 水越 英一郎

本作品は設計テーマである『招く家』に対し、『招く家』を「どのように人々を引き寄せ」、「その土地の生活文化を發展させるか」と同時に「セキュリティをどのように確保すべきか」といった、一見矛盾する条件の解決に挑戦している点が興味深い。具体的には墨田区京島の木造密集地域に着目した長屋を提案している。地域コミュニティに新たな価値をもたらすよう、長屋は異なる仕様の部屋を組み合わせることで入居者の幅を広げたうえで、土間・庇・菜園・路・水路といった人を招くための装置としての中間領域を設けている。これらの中間領域は、この長屋に住む住民同士の交流の場になるとともに、長屋と地域を繋ぐパブリックスペースとしても機能するだろう。

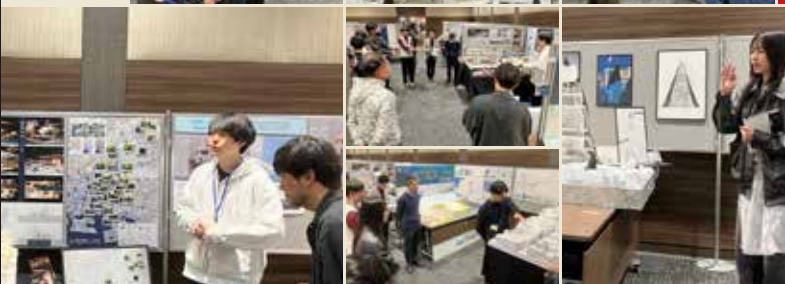
さらに、提案の中では、「環境装置」「防火装置」等、木造密集地域の課題解決につながるアイデアも提示されており、作者のきめ細やかな観察力と提案力が感じられる。

一方、長屋自体の住環境を見ていくと、周辺環境との関わり方や住民同士の関わり方でもっと工夫ができるようにも感じた。京島のもつ歴史や文化といった個性を継承しながらも、時代のニーズにあわせて街をアップデートしていかないと、古き良き時代の保存・継承に留まってしまう。この手の入れ具合はとても難しく、また、一気に行うべきものではない。「長い時間を掛けながら、緩やかに街を変化させる仕組み」について考えてみると、この案は一層ブラッシュアップされるのではないだろうか。

自分自身を振り返ると、大学1・2年生の時に、ここまでの提案は到底できなかった。

今後の飛躍と活躍を期待したい。

なの花会による「ブラッシュアップ相互講評会」の報告



出展者から7名、OBから4名（岡松、中野、皆川、佐久間）、協議会から1名（安達さん）計12名が参加し、全員一緒に7つのブースを移動して回った。作品の前で作者が説明を行い、他の出展者やOBが質問や感想を述べ、意見交換を行った。

模型や図面に近寄って見ながら説明を聞けるので、出展者それぞれの人柄を感じ取ることができた。皆で模型を動かし様々な角度でじっくり見ながら、制作過程での話や作品への共感、自身の反省など、近い距離での会話により、学生同士互いの作品への理解を深められたと考える。

2次審査に進めず議論に取り上げられなかった作品に、改めてOBや参加者からコメントを伝えられたのは良かった。力作ながら上位の賞を取れなかった作品をめぐって「何が」審査基準になるのかという話題や、6月末開催のJIA全国学生卒業設計コンクールへの出展が決まった作品にアドバイスする場面もあった。

他の人の価値観や技法などを直近で知る機会にもなり、出展者の皆さんには様々な意見を参考に修正点を見つけてブラッシュアップにつなげていただきたい。今後の作品づくりに向けて良い刺激になったのではないかなと思う。



千葉県建築学生賞へのご意見・ご感想・ご要望

出来れば、オープンスペースの方がいろいろな方に見ていただきやすいのではと思いました。少しゆっくり見る感じはないのかなあと。

もう少し広いスペースがあるとよいなと思いました。ありがとうございました。

こういった展示など行われていると知らなかったので、もっと広めた方がいいと思います。

偶然向かいましたが、なかなか接点がないため、良い体験ができた。とても興味深かったです。

もう少し文字や図を見やすく欲しいかったです。ジオラマの奥だと眼鏡でも見にくかったです。

模型奥にパネルがあるため、パネルが見にくかった。

初めて展示を見ましたが、どれもよかったです。

どれも素晴らしい作品です。感動しました。

どの作品も時間をかけて丁寧に作られていると感じました。最も好きな作品を選ぶのが大変でした。(どれもよかったため)

素人のため、あまり深く理解ができなかったうえで、各展示の設計意義が分からないものが多かった。こうしたい、こうできるという発表なので、いろいろな視点を知れて良い展示だと思いました。

ボールペンが少し書きにくかった。一筆書きで見て回れたかった。

以前よりも照明が明るく、適切な展示スペースで見やすかった。

見やすくて良かったです。

父が建築士だったので興味が有り、拝見しました。とても面白かったです。

照明の下にある模型と照明の下でない模型で見え方が異なると感じました。学生さんが選んでいるなら納得ですが、ランダムであれば不公平さがあるように思えます。

学生さんとは思えない作品が多かったです。

初めてこういった展示をみました。面白かったです。

作品の上に説明されており、わかりやすかった。初めて見ましたが学生の方々のレベルの高さに驚きました。

展示は良かった。会場もよい。

もう少し展示品を高くしてほしい。

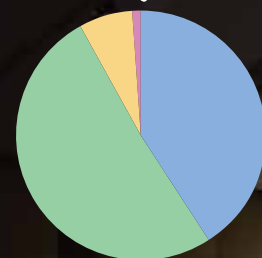
模型とプレゼンシートをブースごとに展示してあって、1人1人の世界観やプレゼンに浸ることができて純粋に楽しかったです。

どれもクオリティー高くてびっくりしました。

とてもステキな会場で良いと思います！
しいて言えば足元が暗かったりすると個人的に作品に集中しすぎて転びそうになるので、足元を照らす照明があるともっと良くなるかなって思いました。来年もぜひステキな会場の開催を待ってます。

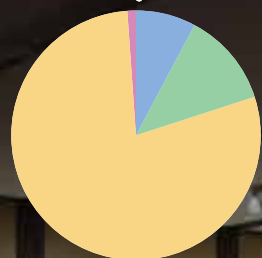
高校生の作品をもっと見たい。パネルの文字の大きさをもう少し大きくしてください。

1.どちらから
いらっしゃいましたか？



■ 千葉市内:8%
■ 千葉市街の県内:12%
■ その他の地域:79%
■ 未記入:1%

2.以前よりこの学生賞を
知っていましたか？



■ 以前見た事がある:8%
■ 知っていたが初めてみた:12%
■ 知らなかった:79%
■ 未記入:1%

過去の作品なども展示していただきたい。

建築学(学科)に興味を持てるようになりました。
どの作品も想像力が豊かで、とても感心しました。
大学生の作品もありますが、高校生がここまでできるのかという驚きとともに、皆さんの将来に期待したいです。
ありがとうございました。

動線で見やすいように横に並べて欲しかった。

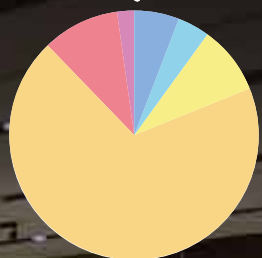
どの作品も素晴らしかったです。
楽しかったです。

子供たちはとても興味深く、皆の作品をととてもほめていました。

こういった展示は初めて見ましたが、どれも考えられている物で実際に見てみたいと思いました。

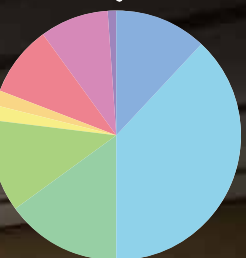
初めて作品を見ましたが、どれも実現出来たら良いなと思います。

3.今回この学生賞をどこで
お知りになりましたか？



■ ポスター:6%
■ チラシ:4%
■ 広報紙:0%
■ 新聞:0%
■ 学校の先生の勧め:9%
■ 会場にて偶然:69%
■ その他:9%
■ 未記入:2%

4.あなたのご職業を
おしえてください。



■ 建築関係:12%
■ その他の職業:38%
■ 主婦:15%
■ 大学生:12%
■ 高校生:2%
■ 中学生:2%
■ 小学生:9%
■ その他:9%
■ 未記入:1%

どの作品も良かったので、中々選ぶのが難しかった。

建築現場の施工監督をしております。未来の建築業界を担う皆さん、社会に出ても頑張ってください！
製作中、作業中の動画があれば良いなと思いました。(顔がうつってなく、手元など)

色々なおうちがあってすごかったです。

公開審査は専門家の方々の意見が素人にはとても面白く、何事も違う視点があるということで、私にとって勉強になりました。高校生にも頑張ってもらいたいです(これからが楽しみ)。講評の時間は大変良かったと思う。これを聞きに次年度も来てみたいとさえ思いました。とても見やすい展示でした(^^)みなさん素晴らしい作品でした!若い力に感動致しました!!

建築に触れる機会はあまりないので、大変面白かったです。

どれもすごい作品で、色々こんな作れることがすごいと思います。

どの作品もすばらしくて良いと思いました。

説明パネルと距離があって、字が小さくてよく見えません。どの作品も時間をかけて細かくよくできていると感心しました。

兄弟が建築設計に携わっており、興味をもつようになりました。

偶然通りかかりました。学生の方々の思いが伝わりとても感動しました。

初めて展示会に入ったが、わかりやすく資料があり、知識がなくてもコンセプトや技術、思いがわかって感心できた。
発表も聞きやすく、展示も見やすかったです。

どの作品もクオリティが高くて、見て面白かったです。

今年の会場はとても落ち着きがあり、審査の様子もよく聞き取れ、とても良かった。

向かって左手の審査委員の後ろにパーティションを置くことで展示も見やすく、会場のまとまりができています。

子供が楽しんでいました。

子供が将来建築士を目指しているので、とても参考になりました。

作品へのコメント

これは来場者から頂いた貴重な声です… これからの糧にしてください。

01 青木 花梨

もりスポ 吹抜けが繋げる歪さ



もりスポ型のクライミングウォールの壁を中心とした吹抜け部分は、この作品で一番魅力的な、開放的で明るい空間だと思います。模型の様な「半屋外」的空間を実現できればより良いものになると思います。逆にそれ以外の空間が少し寂しいように感じ、特に立面・断面をもう少し工夫すれば、より面白い提案になるかと思っています。

細かいところまでやっていて良かったです。

子供が楽しんでいた。

実際に見てみたいと思いました。



模型写真に表すそれぞれのシーンの諸室も、「整形」の「閉ざされたボリューム」ではなく、建物全体に連続性がある空間であるとコンセプトに近くなるように思えました。「ベッドタウン脱却」というテーマは何を目指しているのか？ 建築をアクティビティが覆う→建築にアクティビティを持たせるとしなないと建築の可能性が失われるのでは？ 深堀すれば、まだまだ可能性が広がる様な気がします。

03 藤本 千廣

世界から切り離された美術館



この作品は、ホワイトキューブを肯定しているのか、否定しているのかとも解釈が難しかったです。コロナ以降、建築が閉ざされた存在として代わり行く中、この作品も典型として街から閉じ、内部で完結した空間に感じた。唯一「空」からの自然を取り入れているというコンセプトも何作品か共通するものがあったと思います。

凄くインパクトのある作品でした。街にあったら、皆んなの集合場所になるようなシンボルになるかもしれません。これからも頑張ってください。

建物の形についても考えるきっかけになる。

クオリティが高く面白い。

シーグラムと太陽の塔のセンテンスは、少し理解が難しかったです。設計に落とすし込んだとされるスケッチの様に、スラブがもう少し自由に楽しげな空間になると良いと思いました。



05 若松 瑠芽

船橋水を宿す 水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置



素晴らしいです。

模型とボードの色味が統一されていてすごく見やすく迫力がありました！

船橋に住なのでこの施設があったら遊びに行きたい。

今まさに建築士の勉強をしていて、直接仕事に直結というわけではありませんが、すごく刺激を受けました。市民賞を5番の作品にした理由は、海老川(船橋市)の対象箇所は校並木が綺麗な場所なので、住宅だけと言うよりは、『自然を残す地域の人たちで』といったコンセプトは大事だし、評価できると感じました。

思いが伝わり感動しました

船橋の歴史や土地の背景を伝わり、木造のまるで一隻の船が浮かんでいるようなとても魅力的な建築になっていると思います。木造的な機能や周辺の生態系などにもアプローチしていて、調査と研究の密度が伺えました。

実際の散地については、湿地としての面影が残る場所だと思うが、市街地の手前の流域であることが、少し灯明台などの文化的な要素とマッチしていない印象でした。

力作、お疲れ様様でした。

02 澤村 亮太

慈雨礼賛 雨×自然×脱馴化装置



雨の魅力を感じる閉ざされた建築として、様々な工夫が空間などに現れていて良いと思います。祠と宮之浦集落の軸線上に計画していることもとても良いと思います。

子供が将来建築士を目指しているので、とても参考になりました。

等高線を読むと尾根に垂直に動線があり、山並に沿うボリュームにするならば、谷となるラインの方が外観の印象を抑えられるような気がします。

断面図にH鋼があり、構造が

気になりました。雨が降らない日はどのような使われ方になるのか、室内に流れた雨はどのように自然に運ぶのか、ビジュアルでわかると良いと思います。



04 平田 雅也

繋ぐ ヴァナキュラーネットワークの再構築



こうしたい、こうできるという発表で面白く、色々な視点を知れて良い展示だと思いました。

テーマがとても魅力的で、フィールドワーク等の研究もとても密度が高く、言うことなしの提案だと思っています。木造の架構も、プレゼンテーションも美しい！盛り

窯が建築に取り込まれているのも、とても良い要素だと思います。

しいて言うなら、山とつながるというダイアグラムがあるので、もっとダイナミックに広がる様なプランでも良いかと思っています。

06 中村 綾

「交環所」でゴミに再び行先を 豊島清掃工場を親とする子建築



すぐに実現できそうなアイデアで、テーマに共感できました。

自分の街にも出たら良いと思い1票入れます！

コンセプトが自分のツボにはまりました。

焼却場の子建築という独創的な発想で、ゴミの削減にアプローチする考え方は、とても良いと思いました。それぞれの建物も町中にあるとかわいらしいデザインだと思います。



実際に、ゴミを扱うとなると、施設は行政が管理するのか、また匂いや感染病などの衛生的な面がかなり深刻に考えなければならぬと思います。

開放的で魅力的な提案である一方、昨今、まちに開かれた建築は、慎重に議論をしなければいけない時代となった気がします。

07 片岡 寛二郎

団扇で竹を仰ぐ 房州うちわと女竹のまち「館山」の継承



房州うちわは、小学校の農山村留学で作ってから知ることになりましたが、今も作られていて建築のモチーフになるほど重要に思われていることは!あの形のドームはよく見ますが、金属やコンクリートではなく竹を素材にしたことも感心です。私の興味は通常歴史建築ですが、地元貢献していればたまにこのようなのがあってもいいのかなあと感じます。

もう少し非現実的なものが見られれば良かったです。

敷地選定もとても良い場所と、テーマの房総うちわも魅力的な工芸品かと思っています。ボリュームが大きすぎる様な気がします。

断面図を見ると、海辺の強雨風

を集成材(梁せい500mm)だけ

では屋根の負圧を支えられるイ

メージが湧きませんでした。ま

た、うちわを体感する建物とし

ての要素がもう少し建築的な提

案として空間に表れていると良

いかと思いました。



09 西村 風香

商いの向こう側



腐れていく商店街に奥行きを持たせて再生する考え方はとても面白く、賑わいがある風景のバースはとても良いと思いました。

地縁が薄れゆく現代で、再び地域住民が交流する場がたくさんある街並みはとても魅力的だと思いました。

断面図を見るといろいろな空間があり、巡りたくなるような建築だと思いました。

一方で、コロナ以後の今日では、やはり「街にひらく」ことを慎重に検討しなくてはならないと思います。

模型がきれいでした。

11 吉田 キラリ

50,000㎡の間 陥没地再生と記憶の再資源化計画

大谷町や大谷石採掘での課題点をプラスに変換する建築及び設計が素晴らしいと思います。模型も外壁が真っ直ぐ綺麗なお家はもちろん、内部まで細かく作られていて、素敵な作品だと思いました。

産業と自然の循環を表現されている。この様な試みが広がる事を希望する。

お疲れ様です！

ナイスキー!!

実際に出来たら良いなと思います

負の遺産として残る陥没地をビオトープとして再生するコンセプトはとても面白いと思いました。

提案では、ビオトープの周りを周回できる動線がありましたが、例えば潜ったり等断面的にも行き来できるような建築的な提案があるとよいと思いました。

廃棄大谷石の再利用や地熱を熱源とする提案等もとてもよく考えられていると思います。

個人的には、新設する施設の建築物に対しても、炭鉱の空間要素がもう少し魅力的反映されるととても良いと思いました。

大谷石資料館とは違った提案でとても良いですが、それに勝る何か強いインパクトがあると、設計する意味が深まると思いました。

08 若林 大輔

西尾久blossom 集住・商店街に咲かせる賑わいの場



なぜこの地域に何をコンセプトに建築したのか。という事を大きく記載していただけるとよりわかりやすかったです。

「街の活性化」、「新たな街づくり」、「地域の特性を活かした街づくり」といった明確さを分かりやすく表示されているとより良かったのではないかと思います。素人の意見ですみません。

バースや模型が空間やデザインをとて上手に表現できていると思います。街に対するアプローチとして集合住宅を活用して賑わいを創出する提案ですが、少し建築的要素が弱い様な気がします。

まちに建築を開くというのは、コロナ以降やはり慎重に検討しなくてはならないかと思っています。

知識がなくてもコンセプトや技術、思いがわかって感心できた。

10 佐藤 椰

カタワラに棲まう 寝殿造の空間構造から再考する老人福祉施設



作品のテーマに共感が持てた。日本の社会課題においても、非常に大切な提案をしていると感じたし、建築を設計することの原点に気づかせてくれる作品だった。卒業設計は1つの集大成であるが、今後この作品が建築としてより発展していくことを願っています。

高齢者を介護し見送りましたので、高齢者に配慮した若い想像力に期待します。

「カタワラ」というあいまいな領域の表現が面白く、また「寝殿造り」による空間要素を取り入れた提案はとても良いと思いました。

老人福祉施設の新たな可能性を感じました。一方で、「老人福祉施設」という用途に対して、「くぐる」、「上る」などの要素が、日常生活の快適さを害さないかという疑問も湧いてしまいました。

冒頭にある「自宅で家族や友人と過ごす時間、、、」が提案にもう少し盛り込まれているとなお良いと思いました。

老人になったら、田舎から都会へ出て、雨に濡れない商業施設一体のバリアフリーの建物に住んで、という理想があります。都心なら人口(働く人介護してくれる人含め)も多く、ショッピングモール一体なら雨にぬれず楽しく散歩出来るからです。地方の人手不足を考えると若者を地方に、高齢者を首都圏に集約させる国としての過疎化対策になる様な気もして、建築と関係ない議論かもしれませんが、そのようなことを考えました。



作品へのコメント

これは来場者から頂いた貴重な声です… これからの糧にしてください。

12 菊池 康太

川越再群落化計画

時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ



川越は5.6年前から観光地化が特に感じられる地域であると認識している。そこを活性化するというのは共感出来ない。元から活性化されていると思うから。模型がジオラマ感があり、直線が綺麗ではあるが、建築の模型なのか疑問に感じるものであった。

初めて見ましたが、よく考えられていました。

住みたい家とか江戸みたいな街があって細かく建てられてすごかったです。

細かい情報もあり、町もすごかったです。

「群落」をキーワードに、様々な魅力的シーンが提案されていて、迫力のある素晴らしい提案だと思いました。

観光地化された川越の街並みを、草木の様に自然発生する居場所で変えるという発想がすごいと思いました。



14 江頭 古都奈

めぐり続けるぬくもりのまち

循環型地域子育て扶助の空間



建築への熱意を一番強く感じた。とても丁寧に設計されていて印象に残る作品でした。

♡これからも頑張ってください(*^^*)

一番目を引くのが遊びのエリアですが他のエリアにも遊び心があるのもっと面白かったと思います。



埼玉県宮代町の世代間のコミュニティを意識した室内設計に関心しました。

とても小さく細かいのを作っているのにびっくりしました。

施工管理の目線で見ると、どうしても真四角のシンプルな建物の方が魅力的に感じます。あまりにアーティスティックだと、こんなのどうやって作るんだよと思うので。具体的にどういう工法でどんな材料で作るのか考えてるのは良いと思います。

制作中の動画が見てみたいと思いました。(顔が写らず、手元のみで)

色々なおうちがあってすごかったです。

16 菅谷 心洋

Ginza Leading Museum

アートの眠る街『銀座』振興計画



こんなのができるのすごかったです。



13 小笠原 愛夏

まちなか学生拠点

地域と建築学生をつなぐ「学びの空間」



とても時間をかけて細かくよく出来ていると感じました。

現実性とリアリティが考えられていて関心深かったです。

線からゾーニングされた柔らかな曲線の建物もきれいでいいと思います。

敷地を埋めるように余白に4つのボリュームを立ててしまうのが、少し過密になるし、せっかくの動線のボリュームが弱ってしまうようにも感じました。

この場所にこんな建屋があったら、と考えさせられました。

15 高取 可奈・戸嶋 優稀・三谷 秀光

つながりが生まれるところ



建築物を機能させる管理上スペースの内容を志す展示にどの作品もない。唯一15だけが説明はないがスペースとして想像できる図面になっている。他はレンダブル比が悪すぎる等も含めて現実性が薄い。デザインは良くても。

想像力豊かですごいと思った。細部までこだわりを感じた。

考え方が色々あって型にしていけることは素晴らしいと思います。応援しております

パースに人がいると生活風景がより分かりやすくなると思います。



17 米澤 奈央

建築を編む

藁と人であみだす藁



実現したらとても楽しいアイデアだと思います！

卒業設計として夢がある。

面白かった。



視点が全く異なり、新しい建築の始まりになると感じた。

高1 武村 宗一郎

幕張モンパルナス

文化の発信拠点

色々な建物のがあって一つ一つ考えられていてすごかったです。



高3 神代 優羽

結ぶ



一目惚れました♡いつかこんな素敵な家に住みたいなあという夢が広がりました！これからも頑張ってください(*^^*)

素晴らしい作品だ。胸を打たれました。この作品のおかげで人生が変わりました。

感激しました。

自分の家の設計をお願いしたいくらいです。

家の中身だけでなく、家のカタチについても考えるきっかけを作ってくれた。

高2 林 楓月

みんなの「はなれ」

色味や素材など、佐原の街並みの雰囲気合っている素敵なデザインだと思いました。

佐原の歴史ある街並みに合わせた造りで、それぞれが心地良く過ごせる空間をつくりたいという想いが伝わってきました。とても素敵でした。

子供が楽しそうに見てました。

私も将来作りたいです。

コンセプトが自分のツボにはまりました。

思いが伝わりました。



高4 湯浅 翔永

物語に包まれる家

高校生でこれだけCADが使いこなせるのはすごい。庭石、木のリアルさを描くのは、それなりに技術が必要。間取り一つ一つに確かに物語に包まれるというメッセージ性を伝えてくれている様に感じたのが4番。

発想、クリエイティブに驚きました。

コンセプトがわかって感心でした。



『市民の声』…… 市民投票の結果

	① もりスポ	② 慈雨礼賢	③ 世界から切り離された美術館	④ 繋ぐ	⑤ 船橋水景を宿す	⑥ 交差点「でこみに再び行先を	⑦ 団扇で竹を仰ぐ	⑧ 西尾久 house	⑨ 商いの向こう側	⑩ カタワフに棲まう	⑪ 5000mの間	⑫ 川越再群落化計画	⑬ まちなか学生拠点	⑭ めぐり続けるぬくもりのまち	⑮ つながりが生まれるところ	⑯ Ginza Leading Museum	⑰ 建築を編む	① 幕張モンパルナス	② みんなの「はなれ」	③ 結ぶ	④ 物語に包まれる家
	市民賞																	市民賞			
美しくきれい	5	5	7	5	8	7	5	5	10	7	11	7	6	9	4	2	5	2	9	6	4
迫力がある	5	5	7	5	8	6	5	5	10	8	11	6	6	9	4	2	5	2	8	6	4
独創性がある	5	4	6	3	9	6	4	6	9	6	10	5	5	8	3	2	4	1	9	5	3
テーマや発想が面白い	5	4	6	3	9	6	4	6	9	6	10	5	5	8	3	2	4	1	8	5	3
説得力がある	5	5	7	4	8	7	5	5	10	7	11	6	6	9	5	3	5	2	9	6	4
デザイン性に欠ける	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
インパクトが弱い	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0
独創性に欠ける	0	1	1	2	0	1	1	0	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	0	1	1
テーマや発想に共感できない	0	1	1	2	0	1	1	0	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1
説得力が弱い	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あなたの最も好きな作品	53	9	7	5	43	7	19	4	10	16	11	31	5	44	8	8	5	19	97	116	34

審査員



審査委員長
蒲生 良隆

Yoshitaka GAMOU

1961年東京都生まれ
1984年日本工業大学工学部建築学科卒業
(株)協和建築設計事務所から(株)マキノ建築設計事務所を経て1995年がもう設計事務所 開設
2011年株式会社がもう設計事務所 設立
(一社)千葉県建築士会 副会長
商業施設、幼保施設、マンションなど精力的に設計活動中
関東甲信越建築士会ブロック会
優良建築物表彰
平成29年・30年・令和元年・令和3年
出向元: (一社) 千葉県建築士会

学生のときにしか発想出来ない夢のある作品を期待しています。学生の皆様と共に学生賞を楽しみたいと思います。



バル・ミート事務所 ウェルストン設計本社ビル



まこと第三幼稚園



鈴甲子ショールーム



審査副委員長
磯野 智由

Tomoyoshi ISONO

1974年千葉県生まれ
1997年明治大学理工学部建築学科 卒業
1999年明治大学理工学研究建築学専攻博士前期課程 修了、第23回日新工業建築設計競技 入賞、建築学生設計大賞 準大賞
1999年(株)榎本建築設計事務所 入所
2004年一級建築士事務所STYLELAB 創設
2014年一級建築士事務所STYLELAB株式会社 大多喜町庁舎建設業務プロポーザル 優秀賞
共同提案: NAP建築設計事務所 中村拓志
2016年茂原市認定市民活動団体 CivicTech Mobara 代表 2022 JIA建築家登録
出向元: (公社)日本建築家協会 (JIA)

卒業設計として、学生ならではの創造力あふれる作品を、期待しています。



S-倉庫コンバージョン



D-Residence Project S-サ高住あかね雲



審査委員
水越 英一郎

Eiichiro MIZUKOSHI

1970年千葉県生まれ
早稲田大学建築学科卒業後、同大学院修士課程修了。1995年山下設計入社、現在 山下設計ジェネラルアーキテクト。早稲田大学37号館 早稲田アリーナでは、第1回SDGs建築賞 大規模建築部門 国土交通大臣賞、第18回環境・設備デザイン賞 建築・設備統合デザイン部門最優秀賞、第46回東京建築賞 東京都知事賞・一般二類部門最優秀賞、第63回BCS賞等を受賞した。
2019～21年日本建築学会作品選集 関東支部審査委員、2022年～日本建築家協会 関東甲信越支部 常任幹事
出向元: (一社)日本建築学会

建築には社会を変える力があります。魅力ある未来社会に繋がる創造力に富んだ作品と出会うことを期待しています。



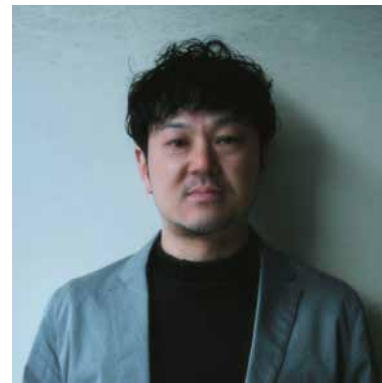
早稲田大学37号館 早稲田アリーナ



東レ未来創造研究センター 融合研究棟



JEFスチール西日本製鉄所 福山本館



審査委員
馬場 亮平

Ryohei BABA

1985年長野県生まれ
千葉大学デザイン工学部卒業後、スイス・メンドリジオ建築アカデミー奨学生、千葉大学大学院修士課程修了。鹿島建設株式会社を経て、2022年OOOarchitecture(オーアーキテクチュア)を設立。
2018年千葉市都市文化賞
2019年JDN空間デザイン賞入賞
2024年グッドデザイン賞
出向元: なの花会(歴代出展者の会)

考えて考えて考えぬいた作品に出会えることを楽しみにしています。



Bring upちば子ども発達センター



神楽坂の医療福祉ビル



浄蓮寺納骨堂



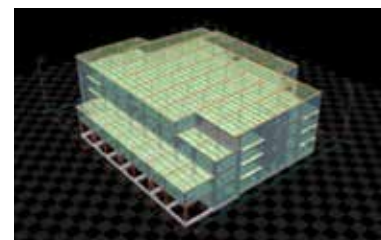
審査委員
池田 格

Kaku IKEDA

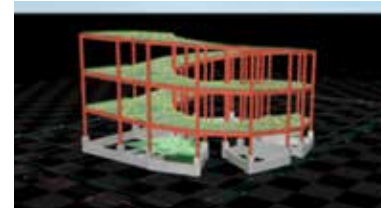
1970年愛媛県生まれ
1993年室蘭工業大学工学部建築工学科卒業。佐藤工業(株)建築設計本部構造設計部、(株)安藤・間 建築事業本部構造設計部等を経て、2013年(株)池田構造設計を設立。2019年から(一社)日本建築構造技術者協会(JSCA)千葉支部の副代表を務める。構造設計専門の設計事務所として、大型物流施設から病院、共同住宅、工場、特殊構造物まであらゆる建物の構造設計を手掛ける。

出向元: (一社)日本建築構造技術者協会

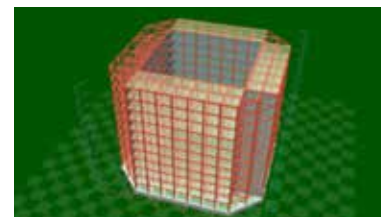
自由で美しい構造デザインを持つ、創造的な建築に出会えることを期待しています。



大型物流施設(柱RC梁Sハイブリッド構法)

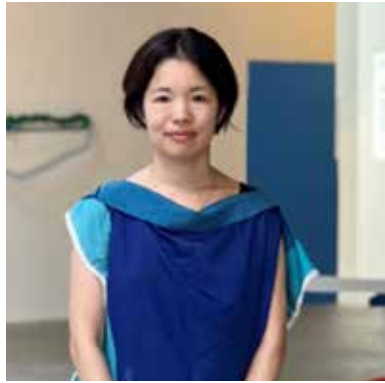


ランブウェイ(S造)



特殊プラント施設(S造)

審査員



審査委員

川口 有子

Naoko KAWAGUCHI

1997年東京工業大学工学部建築学科卒業

1997-2005年山本理顕設計工場

2005年有設計室設立

2014年カワグチテイ建築計画 代表取締役
市原湖畔美術館：千葉県建築文化賞最優秀賞・日本建築学会作品選集 新人賞

徳島県新浜町団地県営住宅：グッドデザイン金賞・日事連建築賞国土交通大臣賞・木材活用コンクール最優秀大賞

出向元：（一社）日本建築学会

地域の未来を変えるような力強い卒業設計作品を期待しています。



市原湖畔美術館



徳島県新浜町団地県営住宅



金沢美術工芸大学



審査委員

高梨 修

Osamu TAKANASHI

1980年芝浦工業大学建築工学科卒業

（株）榎本建築設計事務所 取締役副所長

千葉県優秀建築賞・東京情報大学研究棟

建築コンクール千葉特別優良賞：市原市立水之江小学校

出向元：（公社）千葉県建築士事務所協会

実社会においても常に問題意識を持ち、困難な課題に答えを導く粘り強い思考力が問われます。卒業制作はその大きな第一歩になると思います。



千葉県印旛合同庁舎



東京情報大学研究棟



コーディネーター

関谷 和則

Kazunori SEKIYA

1971年生まれ

1994年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業

1996年日本大学理工学部大学院修了

1996年竹中工務店入社、現在 東京本店設計部設計4部門 設計3グループ長、MIYASHITA PARK：JIA環境賞 GD賞、新宿東宝ビル：BCS賞 GD賞、くらすわ：北陸建築文化賞 GD賞

出向元：（一社）日本建築学会

建築設計者を志す皆さんの集大成となる卒業設計作品。楽しみにしております！



MIYASHITA PARK



新宿東宝ビル



くらすわ

特別審査員



特別審査員

Arch. Antonio Esposito

建築家 アントニオ・エスポジト

1961年 ローマ出身

国立ミラノ工科大学 卒業。建築学修士

ポローニヤ大学 国立科学員 教授

ART_Arquitectural 科学委員会メンバー

ミラノ マリオ・ペリーニ事務所を経て、ポルト街（ポルトガル）の調査、研究等を行い、ブルースキー・エスポジト事務所設立。ポローニヤ大学で教鞭を執りながら現在に至る。

受賞作は、独立200年記念メキシコ・シティ・スクウェア国際コンペ（Bruschi協働）、ウナルキテットウーラ展覧会 他。

フェルナンド・タヴォアラ等 出版、執筆多数。モンテレー（NL、メキシコ）近代的、現代的アイテム会議等を開催。

日本に於ける作品は、横浜ビジネスパーク。（With Studio Mario Bellini）



横浜ビジネスパーク（横浜ビジネスパーク HPより）



Competition for the new Siena stadium.



Row houses in Monopoli



Competition for the south-east coast in Bari



Competition for Libertà sq. in Cesena



Project Financing for the new Monopoli town hall



Free access to the beach and bathing facilities in Monopoli



Plaza Bicentenario in Tlaxcoaque area in Mexico City



Competition for a new square and a new primary school in Bisceglie (Bari)



Competition for the haedquarters of teh Fundación Arquitectura Contemporánea in Cordoba (Spain)



Competition for Villa della Regina in Turin



Competition This is Tomorrow Fundación Miguel Fisac (Spain)



Competition for the railway areas in Bari

主催者団体

（公社）日本建築家協会（JIA）
千葉地域会

●Tel：043-225-7881

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の団体。会員は、日本建築家協会の会員。専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

（公社）千葉県建築士事務所協会

●Tel：043-224-1640

建築士法により開設された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業建築設計事務所等。

（一社）千葉県建築士会

●Tel：043-202-2100

建築士法により設立された一級建築士、二級建築士、木造建築士の団体。会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

（一社）日本建築学会関東支部
千葉支所

●Tel：090-9205-8031

建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。全国に9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

協力団体等

（一社）日本建築構造技術者協会
JSCA千葉

●Tel：043-225-2181

建築構造設計者、構造エンジニアで構成される職能組織。建築構造に関する賞としてJSCA賞、資格としてJSCA構造建築士を主催している。略称はJSCA。

なの花会 千葉県建築学生賞出展者の会
「なの花会」は、これまでの千葉県建築学生賞に出展した OB/OGの同窓会組織として、2009年6月に誕生しました。第一回の出展者から現役の学生まで、出身大学や世代を越えた幅広いメンバー間の、豊かな繋がりや交流を目的とした活動を行っています。

協賛

(一社)日本建築構造技術者協会・JSCA千葉 PAST会 名誉会長 明智 克夫 (株)鈴木ユニット 総合資格学院 (有)佐藤建基 (有)巴工業 (株)千興商事 (株)榎本建築設計事務所 (株)桑田建築設計事務所 (株)潮建築設計事務所 千葉県建設防水工事業(協) (株)千葉県建築住宅センター (株)レスト (株)建築資料研究社 日本ファイリング(株) 児玉コンクリート工業(株) 草薺木工所(株) (株)オカムラ コクヨマーケティング(株) (一社)千葉県建設業協会 日軽パネルシステム(株) (株)メント (株)スタジオ・チッタ (有)セイワ工芸 三協立山(株) (株)千葉測器 (株)ひらい 日本ERI(株)千葉支店 (協)千葉県鐵骨工業会 (株)角藤千葉支店 (株)イトーキ 立川プラインド工業(株) TOTO 東リ(株) リリカラ(株) (株)須藤黒板製作所 (株)青井黒板製作所 (株)技研基礎 (株)恩田商工 (株)LIXIL	270-0074 262-0012 273-0005 262-0019 130-0002 264-0003 260-0854 261-0001 260-0022 260-0013 260-0013 101-0062 260-0032 101-0062 171-0022 305-0662 260-0027 260-0045 260-0024 260-0028 132-0021 260-0843 298-0106 261-8501 260-8567 299-0111 260-0028 260-0045 260-0028 261-7121 260-0044 260-0032 260-0843 275-0023 132-0035 165-0026 260-0843 266-0026 140-0033 270-0872 260-0007 264-0025 274-0815 274-0825 103-002 260-0032 261-0005 263-0003 292-0838 260-0027 285-0022 260-0854 272-0823 260-0032 260-0044 260-0005	船橋市滝台二丁目1番28号 薬園台ヒルズ301号 (有)佐藤建築構造設計事務所内 千葉市花見川区千種町241-11 船橋市本町5-4-2 森ビル6階 千葉市花見川区朝日ヶ丘4-11-5 東京都墨田区業平1-9-4 千葉市若葉区千城台南4-11-15 千葉市中央区長洲2-8-5 千葉市美浜区幸町1-2-2 桑田ビル内 千葉市中央区神明町206-3 ハイツ千葉市神明町2F 千葉市中央区中央4-10-16 第22Ciビル505 千葉市中央区中央4-8-5 建築会館2F 東京都千代田区神田駿河台2-2 御茶ノ水杏雲ビル 千葉市中央区登戸1-2-10 宮内ビル2F 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館7F 東京都豊島区南池袋1-16-20 茨城県つくば市赤塚442-1 千葉市中央区新田町1-1 千葉市中央区弁天1-15-1 細川ビル4F 千葉市中央区中央港1-13-1 建設業センター5F 千葉市中央区新町18-14 千葉新町ビル5F 東京都江戸川区中央3-5-5 千葉市中央区末広1-2-6 いすみ市須賀谷2327-1 千葉市美浜区中瀬1丁目3番B-20 幕張テクノガーデンB棟20階 千葉市中央区都町2-19-3 市原市姉崎736-1 千葉市中央区新町3-13 千葉TNビル3F 千葉市中央区弁天1-21-3 石橋弁天ビル2階 千葉市中央区新町18-10 千葉第一生命ビルディング5F 千葉市美浜区中瀬2-6-1 ワールドビジネスガーデン(マリブイースト)21階 千葉市中央区松波2-8-1 千葉市中央区登戸1-14-22 千葉市中央区末広4-18-1 千葉市花見川区幕張本郷5-2-11 アトレー幕張101 江戸川区平井7-17-35 東京都中野区新井1-1-5 千葉市中央区末広5-8-6 千葉市緑区古市場町474-56 東京都品川区西品川1-1-1大崎ガーデンタワー24階 柏市十余二403-3・2F 千葉市中央区祐光4-7-10 千葉市若葉区都賀3-33-23 船橋市西習志野3-26-8 ファインコート北習志野2B 船橋市前原西2-4-9 東京都中央区日本橋小舟町14-10 中町ビル2B 千葉市中央区登戸1-4-1 千葉市美浜区稲毛海岸2-1-28 千葉市稲毛区小深町122-1 木更津市潮浜1-17-19 千葉市中央区新田町12-15 K16 401 佐倉市中尾余町5番地 千葉市中央長洲2-8-2 ヤリタビル202 市川市東菅野1-13-8 千葉市中央区登戸1-26-1 朝日生命千葉登戸ビル9F 千葉市中央区松波2-13-20 オフィス松波 千葉市中央区富士見2-3-1	043-252-6174 043-257-5754 047-425-8034 090-3202-2780 03-5608-4582 043-236-3211 043-227-9345 043-241-7511 043-203-8433 043-222-4751 043-222-0109 03-5217-7636 043-244-0121 03-5294-3025 03-3971-7195 029-836-7772 043-204-5790 043-207-5581 043-246-7624 043-302-7177 03-5879-5470 043-223-7676 0470-86-5204 043-296-3292 043-232-2541 0436-62-2204 043-203-8551 043-247-2631 043-246-1131 043-304-5510 043-252-2821 0570-023-301 043-208-1381 043-382-3375 03-3617-8701 03-3387-3330 043-266-6812 043-308-8005 050-1791-2329 043-221-2051 043-231-2100 047-463-9901 047-472-3027 03-3664-5887 043-244-3939 043-248-0791 090-5903-6210 0438-37-4121 043-203-0705 043-484-3098 043-441-8711 047-702-3681 043-244-3711 043-305-5970 043-227-8527
---	---	--	---

後援

千葉県/千葉県教育委員会/千葉市/千葉市教育委員会/NHK千葉放送局/千葉県ケーブルテレビ協議会/朝日新聞 千葉総局/読売新聞 千葉支局/
毎日新聞社 千葉支局/産経新聞社 千葉総局/(株)日本建設新聞社 千葉総局/(株)日刊建設通信新聞社 東関東支局/日刊建設工業新聞社

主催者団体

(公社)日本建築家協会千葉地域会(JIA千葉) **┃**代表:森田敬介

- 建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の個人及び団体。
会員は、専業設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

(一社)千葉県建築士会 **┃**会長:久富清隆

- 建築士法により設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。
会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建設業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(公社)千葉県建築士事務所協会 **┃**会長:井桁正昭

- 建築士法により設立された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業に勤務する地区設計事務所等。

(一社)日本建築学会 関東支部・千葉支所 **┃**支所長:小島聡

- 建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。
全国9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

協力団体等

(一社)日本建築構造技術者協会・JSCA千葉 **┃**会長:佐藤暢彦

- 建築構造設計者、構造エンジニアで構成される職能組織。
建築構造に関する賞としてJSCA賞、資格としてJSCA構造建築士を主催している。略称はJSCA。

なの花会(千葉県建築学生賞出展者の会) **┃**会長:岡松利彦

- 「なの花会」は、これまでの千葉県建築学生賞に出展したOB / OGの同窓会組織として、2009年6月に誕生しました。
第一回の出展者から現役の学生まで、出身大学や世代を超えた幅広いメンバー間の、豊かな繋がりや交流を目的とした活動を行っています。

企画・発行 千葉県建築学生賞協議会	
┃ 会長	小島聡
┃ 審査委員長	蒲生良隆
┃ 副審査委員長	磯野智由
┃ 審査委員	水越英一郎・池田格・川口有子・高梨修・馬場亮平
┃ 特別審査委員	アントニオ エスポジト[ボローニャ大学国立科学院 教授]
┃ 審査コーディネーター	関谷和則
┃ 広報委員会	森田敬介・安達文宏・寺川典秀・中野正也・柳田富士男・田端友康
┃ 編集・ポスター委員会	田端友康・小島聡・中野正也
┃ 会場委員会	堀川成良・細谷悠太・青山貴仁・角田淳・桑田浩司・平野武・武井猛
┃ 受入・得点表示委員会	小暮亮太・岡田修治・小島聡・中野正也
┃ 表彰委員会	牧野嶋彩子・佐藤暢彦・細谷悠太・林祐介
┃ 市民賞委員会	小暮亮太・向後智弘
┃ JIA出展委員会	田端友康
┃ なの花会賞委員会	皆川拓・岡松利彦・稲吉匠哉・津留悠真
┃ スキルアップ相互評価会	佐久間達也・佐々木達郎・岡松利彦・関谷和則・皆川拓
┃ 高校委員会	林祐介・大久保亘・原敦子
┃ 協賛委員会	鈴木周二・鈴木克則・岡田修治・山田紀夫・廣瀬歩・平瀬慎一郎・山本聡・平宅武司・一北治郎・平野武・武井猛
┃ 交流委員会	鈴木克則・平宅武司
┃ 歴代会長会幹事	森田敬介・寺川典秀・柳田富士男・安達文宏・中野正也・田端友康
┃ オブザーバー	安達文宏・寺川典秀・森田敬介・田端友康・佐藤暢彦・中野正也
┃ 歴代会長会(※:執行役員)	明智克夫(名誉会長)・寺川典秀(PP会会長)・清水怡・櫻井修・宇野武夫・佐竹良造・加藤文男・森田敬介・星野治・古里正・大岩義充・柳田富士雄・安達文宏・神成健・中野正也・田端友康・飯沼竹一・河原泰・麗佳正(故人)
┃ 事務局	矢内美恵
┃ ポスターデザイン	箕輪羽月(東京理科大学 創域理工学部 建築学科 第36回 最優秀賞)
┃ 編集/デザイン/印刷	株式会社みつわ
┃ WEBサイト制作	株式会社みつわ